

0001

5-1 設計条件・エスキス > 敷地条件・要求室 | 難易度：基礎

設計製図のエスキスを始める際、最初に行う作業として最も適切なものはどれか。

- ア．敷地形状・道路位置・方位・建物用途・階数・主要要求室・面積条件など、変更できない与条件を整理する。
- イ．いきなり平面図を描き始め、要求室は後で空いた場所に入れる。
- ウ．外観デザインだけを先に決め、敷地条件は最後に確認する。
- エ．課題文の数値条件は概算でよいとして、記録せず記憶だけに頼る。

答え・解説

正答：ア

ア：設計製図では自由に計画する前に、問題文で固定された条件を抽出し、違反や読み落としを防ぐことが重要である。

イ：主要室や面積条件の欠落につながりやすく、重大な不適合の原因となる。

ウ：道路・敷地・方位等は配置や動線を左右するため先に把握する必要がある。

エ：数値条件はチェックリスト化し、エスキスと最終確認で照合するのが安全である。

総合解説：設計条件の読取りは、敷地、用途、階数、要求室、面積、外部空間、構造、要求図書の順に整理すると漏れを防ぎやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0002

5-1 設計条件・エスキス > 敷地条件・要求室 | 難易度：基礎

複数の要求室が指定された設計課題で、主要室の欠落を防ぐ方法として最も適切なものはどれか。

- ア．主要室は図面上の余白に名称だけ記入すれば設置したことになる。
- イ．要求室一覧を作り、設置階・必要面積・隣接条件・外部接続条件を整理して、エスキスと完成図で二重確認する。
- ウ．要求室のうち一つ程度なら欠落しても、他室を広くすれば相殺される。
- エ．設置階の指定があっても、総面積が同じなら別階へ移してよい。

答え・解説

正答：イ

ア：名称だけでは空間として成立せず、必要な位置・面積・動線を満たす必要がある。

イ：主要室の欠落や設置階違いは重大な不適合になり得るため、一覧化して管理するのが有効である。

ウ：主要要求室の欠落は重大な不適合に該当し得る。

エ：設置階も設計条件の一部であり、指定があれば守る必要がある。

総合解説：要求室は『あるかないか』だけでなく、階、面積、用途、隣接・動線条件まで確認する。令和7年の合否判定基準でも主要室の欠落・階違いが重大な不適合として示されている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0003

5-1 設計条件・エスキス > 敷地条件・要求室 | 難易度：基礎

住宅系の設計課題で、居室の採光・日照を考慮した配置として最も適切な考え方はどれか。

ア．方位は平面計画に影響しないので、全ての居室を無条件に北側へ固定する。

イ．道路側であれば方位に関係なく必ず全居室を配置する。

ウ．敷地条件や道路・隣地条件を踏まえつつ、主要居室を良好な採光・日照が得られる側へ配置できるよう検討する。

エ．主要居室は窓の設置可能性を確認せず、建物中央部へ配置する。

答え・解説

正答：ウ

ア：方位は採光・日照・眺望・熱環境等に関係し、敷地条件に応じて検討する必要がある。

イ：道路側には騒音・プライバシー条件もあり、用途に応じた検討が必要である。

ウ：方位は居室の環境条件に影響するため、外部条件と合わせてゾーニング初期に検討する。

エ：採光・換気の確保が難しくなるため、外壁面との関係を確認する必要がある。

総合解説：設計製図では方位だけで機械的に決めず、道路、隣地、外部空間、プライバシー、採光・換気を総合する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0004

5-1 設計条件・エスキス > 敷地条件・要求室 | 難易度：標準

商店街に建つ併用住宅を計画する練習で、店舗等の非住宅部分と住宅部分の要求を整理する考え方として最も適切なものはどれか。

ア．店舗利用者が住宅の私的空間を通過する動線を標準とする。

イ．住宅玄関を設けず、営業時間外も店舗内部を通らなければ出入りできない計画にする。

ウ．道路からの店舗アクセスをなくし、来客全員を住宅側庭から迂回させる。

エ．来客動線と居住者動線、営業時間帯、プライバシー、道路からのアクセスを整理し、必要に応じて入口や動線を分ける。

答え・解説

正答：エ

ア：住宅のプライバシーと防犯上不利であり、用途ごとの動線整理が必要である。

イ：用途・運用条件によっては不便・不適切となるため、独立性を検討する必要がある。

ウ：商店街の店舗用途では道路との関係を活かす配置が通常合理的である。

エ：併用住宅では用途の異なる利用者が同じ建物を使うため、動線・視線・管理の整理が重要である。

総合解説：令和8年課題は『商店街に建つ併用住宅（木造3階建て）』まで公表されているが、具体的要求室は未公表である。本問は用途複合時の一般的なエスキス判断を訓練する独自問題である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0005

5-1 設計条件・エスキス > 敷地条件・要求室 | 難易度：標準

一方の道路に接する敷地で、建物の主出入口を計画する際の考え方として最も適切なものはどれか。

ア．道路から安全かつ分かりやすく到達でき、車両動線や外部空間との交錯を最小限にできる位置を検討する。

イ．道路から見えない敷地最奥に必ず設け、案内性は考慮しない。

ウ．車両出入口と歩行者入口を同一点に重ねるほど安全になる。

エ．敷地境界から建物へ至る経路は図面に示さなくても計画が存在するとみなす。

答え・解説

正答：ア

ア：主出入口は建物内部だけでなく、道路から敷地内を通るアプローチ全体で評価する。

イ：利用者が迷いやすく、外部動線も長くなるため用途に応じて検討する必要がある。

ウ：交錯が増えるため、可能なら分離・視認性確保を検討する。

エ：配置図では道路から玄関までの外部動線を明確に表現する必要がある。

総合解説：配置計画は建物を敷地に置くだけではなく、道路から入口までの人・車・自転車の流れを成立させる計画である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0006

5-1 設計条件・エスキス > 敷地条件・要求室 | 難易度：標準

設計課題で屋外テラスや駐車スペース等の外部空間が指定された場合、最も適切な扱いはどうするか。

ア．屋外空間は建築面積に含まれない場合があるので、問題文に指定されても無視してよい。

イ．室内の要求室と同様に、位置・大きさ・接続先・利用目的を整理し、配置図と平面図の双方で整合させる。

ウ．外部空間の位置は室内動線と無関係に決める。

エ．配置図に名称だけ書けば、実際の寸法やアクセスは不要である。

答え・解説

正答：イ

ア：面積算定とは別に、要求された外部空間は設計条件として満たす必要がある。

イ：過去の設計製図では屋外テラス等も主要な要求条件となり、欠落や接続不良が評価に影響する。

ウ：利用目的に応じて室内との接続や道路・庭との関係を検討する。

エ：利用可能な広さ・位置・接続を具体的に計画する必要がある。

総合解説：設計製図では『屋外』も要求条件の一部である。室内要求室と同じようにチェックリスト化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0007

5-1 設計条件・エスキス > 敷地条件・要求室 | 難易度：標準

要求室が多い設計課題で、隣接条件を整理する方法として最も適切なものはどれか。

- ア．全ての部屋を廊下でつなげばよいとして、室同士の関係は検討しない。
- イ．隣接条件は面積配分後に余った場所で決める。
- ウ．必須隣接、近接が望ましい関係、離したい関係を区別し、バブル図等で優先順位を整理する。
- エ．離したい室ほど同じ出入口を共用させる。

答え・解説

正答：ウ

ア：用途によって直接接続や視認性が重要な室がある。
イ：強い隣接条件はゾーニング初期に反映する方が合理的である。
ウ：全ての室を同じ重要度で扱うと計画が複雑になるため、利用上不可欠な隣接関係を先に固定する。
エ：騒音・プライバシー・運用上の干渉を避ける条件も考慮する必要がある。
総合解説：バブル図は完成平面ではなく、室同士の関係を抽象化する道具である。強い条件から固定するとエスキスが安定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0008

5-1 設計条件・エスキス > 敷地条件・要求室 | 難易度：標準

練習課題で、ある室に約18㎡が必要である。木造の910mmモジュールを用いるとき、概算として最も近い組合せはどれか。

- ア．1P×2P程度。0.91m×1.82mで約1.7㎡となり、18㎡には大幅に不足する。
- イ．2P×3P程度。1.82m×2.73mで約5.0㎡となり、必要面積に不足する。
- ウ．10P×10P程度。9.10m×9.10mで約82.8㎡となり、必要面積に対して過大である。
- エ．4P×6P程度。3.64m×5.46mで約19.9㎡となり、家具・壁厚等を踏まえて調整しやすい。
- オ．

答え・解説

正答：エ

ア：要求面積との差が大きく、室として成立しない。
イ：18㎡程度の要求に対して小さすぎる。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。
ウ：面積条件と全体計画を圧迫するため合理的でない。
エ：要求面積をモジュールへ置き換えると、エスキス段階で寸法と面積を同時に検討しやすい。
総合解説：エスキスでは面積を平方メートルのまま考えるだけでなく、モジュール寸法へ変換し、実際に描ける矩形へ落とし込む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0009

5-1 設計条件・エスキス > 敷地条件・要求室 | 難易度：応用

一部が狭くなった不整形敷地に建物を配置する際、最も適切な考え方はどれか。

ア．主要な室・構造グリッドはできるだけ整形にまとめ、不整形部分はアプローチ・植栽・設備置場等へ活用できるか検討する。

イ．敷地境界の折れごとに建物外壁も必ず折り曲げる。

ウ．不整形部分がある場合は敷地条件を無視して矩形敷地として描く。

エ．狭い部分へ階段や主要室を無理に押し込み、寸法は後で調整する。

答え・解説

正答：ア

ア：無理に建物外形を敷地形状へ合わせると、室形状や構造計画が複雑になりやすい。

イ：室・構造・屋根形状が複雑になり、合理性を損ないやすい。

ウ：敷地境界と道路条件は与条件であり、正確に反映する必要がある。

エ：階段・主要室には必要寸法があり、成立性を先に確認する必要がある。

総合解説：敷地形状に建物を過度に追従させず、構造と室計画を整形化しつつ外部空間で調整するのがエスキスの基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0010

5-1 設計条件・エスキス > 敷地条件・要求室 | 難易度：応用

令和8年課題が『商店街に建つ併用住宅（木造3階建て）』と公表されている段階での学習姿勢として、最も適切なものはどれか。

ア．予備校等の予想条件を本試験の確定条件として暗記し、それ以外は考えない。

イ．課題名と公表済み要求図書は確実に押さえつつ、未公表の要求室・敷地寸法・面積条件を本試験条件と断定せず、複数パターンで対応力を養う。

ウ．課題名が公表されたので、試験当日の問題文は読まなくてよい。

エ．要求図書も試験当日に自由に選べるので、公表内容は確認しなくてよい。

答え・解説

正答：イ

ア：予想は練習材料にはなるが、公式の未公表条件とは区別する必要がある。

イ：本試験の詳細条件は試験当日に問題文で示されるため、未公表条件を固定して覚えるのは危険である。

ウ：公式注意でも試験問題を十分に読むことが求められている。

エ：令和8年は要求図書が事前公表されており、学習計画に反映できる。

総合解説：2026-09-03時点では詳細な設計条件は未公表である。公式に確認できる範囲と予想・練習条件を明確に区別する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0011

5-1 設計条件・エスキス > 面積条件・ゾーニング | 難易度：基礎

延べ面積の上限・下限が指定された課題で、エスキス初期の面積管理として最も適切なものはどれか。

ア．要求室だけの面積を合計し、階段や廊下は床面積に関係しないものとして無視する。

イ．面積条件は完成後に初めて計算すればよい。

ウ．各階の概算床面積を早期に設定し、主要室・階段・廊下・収納を含めた合計が条件内に収まるか繰り返し確認する。

エ．上限を超えても、主要室が全てあれば面積違反は問題にならない。

答え・解説

正答：ウ

ア：床面積には室だけでなく階段・廊下等も含まれるため、概算段階から考慮する必要がある。

イ：面積違反は重大な不適合になり得るため、エスキス段階から管理する。

ウ：最後に面積を合わせようとする、主要室や動線が崩れやすいため、初期から階別面積を管理する。

エ：公式合否判定基準でも面積等の不適合は重大な不適合とされている。

総合解説：面積は設計の結果ではなく、エスキスを拘束する主要条件である。階別面積表を仮作成して進めると安全である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0012

5-1 設計条件・エスキス > 面積条件・ゾーニング | 難易度：基礎

住宅系課題のゾーニングとして、最も適切な考え方はどれか。

ア．来客動線を全て寝室の中へ通す。

イ．共用部と私室の境界をなくし、どこからでも自由に出入りできる計画を標準とする。

ウ．ゾーニングは室名の色分けだけで、動線や隣接関係には影響しない。

エ．来客が利用する共用・接客空間と、居住者の私的空間の関係を整理し、必要なところでは視線・動線を分ける。

答え・解説

正答：エ

ア：私的空間を通過するためプライバシー上不適切である。

イ：用途や管理条件に応じたゾーニングが必要である。

ウ：ゾーニングは空間の機能関係を整理する計画手法である。

エ：利用者属性の異なる空間を無秩序に混在させないことが、プライバシーと運用性の確保につながる。

総合解説：過去課題でも交流とプライバシーの両立が重視されている。ゾーニングでは利用者と時間帯を意識する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0013

5-1 設計条件・エスキス > 面積条件・ゾーニング | 難易度：基礎

複数階の住宅計画で、上下階の水回りを近接配置する利点として最も適切なものはどれか。

ア．給排水立て管をまとめやすく、配管経路を短くし、構造部材との干渉や維持管理上の複雑さを減らせる。

イ．水回りを各階の対角位置へ離すほど配管が短くなる。

ウ．上下階の設備位置は構造や配管と無関係である。

エ．水回りを建物中央へ集めれば、採光・換気や排水経路を一切考えなくてよい。

答え・解説

正答：ア

ア：設備ゾーニングを意識すると、平面・構造・設備の整合を取りやすくなる。

イ：離すほど横引き配管が長くなりやすい。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

ウ：梁貫通・勾配・立て管位置に影響する。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

エ：設備計画と室環境条件の両方を満たす必要がある。

総合解説：設計製図では設備図を描かなくても、平面計画に設備合理性が表れる。水回りの上下整合は重要な判断項目である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0014

5-1 設計条件・エスキス > 面積条件・ゾーニング | 難易度：標準

2～3階建てのエスキスで階段位置を早期に決める理由として、最も適切なものはどれか。

ア．階段は床面積に含まれず、どこに置いても他室へ影響しないから。

イ．上下階の動線と床伏・構造計画を同時に拘束するため、階段位置が各階平面の骨格になりやすいから。

ウ．階段位置は1階だけ決めれば、上階では別位置に移動してよいから。

エ．階段は完成図で記号を描けば実際の幅や蹴上げを検討しなくてよいから。

答え・解説

正答：イ

ア：階段は床面積と動線・構造へ大きく影響する。

イ：階段を後回しにすると上下階不整合や廊下増大が生じやすい。

ウ：上下階で連続する必要がある。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

エ：安全な階段寸法と上下階の納まりを成立させる必要がある。

総合解説：階段は平面、断面、床伏、避難の全てに関係するため、エスキスの重要な固定要素である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0015

5-1 設計条件・エスキス > 面積条件・ゾーニング | 難易度：標準

吹抜けが要求された課題での計画として、最も適切なものはどれか。

ア．吹抜けは図面上に文字だけ書けば、床が描かれていても成立する。

イ．吹抜けの大きさが指定されても、半分程度に縮めてよい。

ウ．要求された位置・大きさを確認し、上下階の室関係、床面積、手すり、梁配置への影響を合わせて検討する。

エ．吹抜け位置は梁・床伏と無関係なので、構造図では床を連続させる。

答え・解説

正答：ウ

ア：上階床が存在する部分は吹抜けではないため、平面・床伏を整合させる必要がある。

イ：指定条件違反は重大な不適合になり得る。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

ウ：吹抜けは空間的要素だけでなく、面積・構造・上下階整合へ大きく影響する。

エ：床開口として構造計画へ反映する必要がある。

総合解説：令和7年課題では吹抜けの大きさに関する設計条件違反が不合格要因として挙げられている。条件読み取りと図面整合が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0016

5-1 設計条件・エスキス > 面積条件・ゾーニング | 難易度：標準

エスキス途中で主要室が要求面積に不足し、延べ面積上限には余裕がないことが分かった。最も適切な対応はどれか。

ア．室名だけ隣の廊下へはみ出して記入し、面積が増えたことにする。

イ．要求面積に満たなくても、家具を小さく描けば条件を満たしたことにする。

ウ．主要室を欠落させ、その面積を他室へ加える。

エ．廊下・収納・室形状・隣接関係を見直し、必要ならゾーニングから再調整して主要室の面積を確保する。

答え・解説

正答：エ

ア：実際の室区画と面積が一致しないため不適切である。

イ：要求面積は図面上の実面積で満たす必要がある。

ウ：主要室欠落は重大な不適合となり得る。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

エ：主要室の不足を小手先でごまかさず、全体の面積効率を見直す必要がある。

総合解説：エスキスでは面積不足が判明したら、動線短縮や室形状の整形化まで戻って調整する判断が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0017

5-1 設計条件・エスキス > 面積条件・ゾーニング | 難易度：標準

1階外形が $8.19\text{m} \times 7.28\text{m}$ の矩形、2階外形が $7.28\text{m} \times 6.37\text{m}$ の矩形とする。単純計算した各階床面積の合計に最も近いものはどれか。

ア．約 106.0m^2 。1階約 59.6m^2 、2階約 46.4m^2 で合計約 106.0m^2 となる。

イ．約 59.6m^2 。1階だけを合計した値である。

ウ．約 46.4m^2 。2階だけを合計した値である。

エ．約 212.0m^2 。各階合計をさらに2倍している。

答え・解説

正答：ア

ア：面積表は図面外形寸法から独立して再計算し、平面図と照合する。

イ：延べ面積は各階床面積を合計する。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

ウ：1階も含めて計算する必要がある。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

エ：各階を一度ずつ合計すればよい。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

総合解説：試験では面積表の数値と平面図が一致していることが重要である。面積違反は重大な不適合となり得る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0018

5-1 設計条件・エスキス > 面積条件・ゾーニング | 難易度：標準

エスキスで建物外形をまとめる考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．室ごとに外壁を細かく凹凸させるほど、面積効率と構造性が必ず高くなる。

イ．要求条件を満たせる範囲で凹凸を抑えた整形な外形とし、廊下の無駄や構造の複雑化を避ける。

ウ．敷地に余裕があっても、全室を細長い一列配置にする。

エ．建物外形は床伏図と無関係なので、各階で全く異なる形にする。

答え・解説

正答：イ

ア：外周長が増え、構造・防水・作図が複雑になりやすい。

イ：整形な外形は面積効率、架構、屋根、作図速度の面で有利である。

ウ：動線が長くなりやすく、室形状や構造スパンも不合理になり得る。

エ：上下階の荷重伝達と構造整合を考慮する必要がある。

総合解説：製図試験では短時間で成立性の高い案を作る必要があり、整形平面は有効な基本戦略である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0019

5-1 設計条件・エスキス > 面積条件・ゾーニング | 難易度：応用

木造3階建ての練習課題で各階のゾーニングを行う際、最も適切な考え方はどれか。

ア．各階を独立した平屋として考え、柱・壁位置の上下関係は最後まで確認しない。

イ．上階の大きな耐力壁を下階の大開口直上へ無条件に配置する。

ウ．下階へ荷重と水平力を連続して伝えやすいよう、上下階の主要な壁・柱位置を意識しながら室配置を組み立てる。

エ．3階建てでは構造計画より室名の配置だけを優先すればよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：荷重伝達と耐力壁の連続性に問題が生じやすい。

イ：下階に力を伝える要素がなく、構造的に不合理になりやすい。

ウ：3階建てでは上下階の不整合が構造計画を複雑にしやすいため、平面計画初期から架構を意識する。

エ：木造架構と平面計画を同時に成立させる必要がある。

総合解説：令和8年課題は木造3階建てと公表されている。具体的条件は未公表だが、上下階の架構連続性を意識する訓練は重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0020

5-1 設計条件・エスキス > 面積条件・ゾーニング | 難易度：応用

設計製図のエスキスが一度まとまった後の確認として、最も適切なものはどれか。

ア．平面が見栄えよくまとまれば、法規・面積・構造チェックは不要である。

イ．一室の面積を変更しても延べ面積や外形寸法は確認しない。

ウ．エスキス確定後は問題文を見返さない。

エ．要求室・面積・動線・法規・構造グリッドを再照合し、一項目の修正が他条件へ与える影響も確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：見た目だけでは合格条件を保証できない。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

イ：修正内容を面積表・構造・他図面へ反映する必要がある。

ウ：条件漏れを防ぐため、確定時にも問題文との照合が重要である。

エ：設計条件は相互に関連するため、一度成立した案でも修正後に連鎖的な不整合が生じることがある。

総合解説：エスキスは一方向の作業ではなく、条件→案→チェック→修正の反復で精度を高める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0021

5-1 設計条件・エスキス > 動線・配置・外構 | 難易度：基礎

複数の利用者属性がある建物の動線計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．居住者、来客、管理者等の主動線を整理し、不要な交錯を避けながら必要な共用部で接続する。
- イ．全ての利用者を同じ私室内の通路へ集中させる。
- ウ．動線は廊下幅だけの問題なので、出入口の位置関係は検討しない。
- エ．来客動線とサービス動線は必ず最大限交差させる。

答え・解説

正答：ア

- ア：利用者ごとの動線目的を明確にすると、プライバシーと運用性を両立しやすい。
 - イ：私的空間への不要な進入が生じ、運用上不適切である。
 - ウ：入口から目的室までの連続した経路として考える必要がある。
 - エ：必要に応じて交錯を抑える計画が望ましい。
- 総合解説：動線計画は線を短くするだけでなく、利用者の属性、時間帯、視線、管理を考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0022

5-1 設計条件・エスキス > 動線・配置・外構 | 難易度：基礎

住宅系課題で玄関から共用リビング等への動線として、最も適切なものはどれか。

- ア．他の個室を通り抜けなければ到達できない計画とする。
- イ．短く分かりやすく、私室を通過せずに到達できる経路とする。
- ウ．行き止まりを何度も経由する複雑な経路とする。
- エ．玄関から屋外へ一度出ないと共用室へ行けない計画を標準とする。

答え・解説

正答：イ

- ア：プライバシーと使い勝手の両面で不適切である。
 - イ：共用空間へのアクセスは案内性を高め、私的空間への侵入を避けるのが基本である。
 - ウ：日常利用・避難時ともに分かりにくくなる。
 - エ：課題条件に特別な理由がない限り、建物内部で合理的につなぐ方が自然である。
- 総合解説：動線は『どこからどこへ、誰が、どの頻度で移動するか』で評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0023

5-1 設計条件・エスキス > 動線・配置・外構 | 難易度：基礎

駐車スペースと主玄関を同じ道路側に設ける場合の配置として、最も適切な考え方はどれか。

ア．歩行者アプローチを駐車区画の中央に通す。

イ．車庫入れ時に玄関前を必ず横断するよう計画する。

ウ．車両の出入り範囲と歩行者アプローチをできるだけ分離し、交差する場合は視認性を確保する。

エ．配置図では駐車位置だけ示し、道路からの出入り方向は考えない。

答え・解説

正答：ウ

ア：車両との接触リスクが高まる。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

イ：可能なら交錯を避ける方が安全である。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

ウ：外構では車と人の安全な関係を計画する必要がある。

エ：実際に出入り可能な寸法・動線を確認する必要がある。

総合解説：外構計画は図上の空きスペースに設備を置く作業ではなく、実際の利用動線を成立させる設計である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0024

5-1 設計条件・エスキス > 動線・配置・外構 | 難易度：標準

屋外テラスを交流用途に使う課題で、配置として最も適切な考え方はどれか。

ア．共用室から最も遠い建物裏側に設け、倉庫を通らなければ行けない計画とする。

イ．テラスを道路上へはみ出させる。

ウ．外部からしか入れず、室内との関係を一切持たせない。

エ．関連する共用室から直接または短い経路で出入りでき、利用状況を把握しやすい位置に設ける。

答え・解説

正答：エ

ア：利用しにくく、要求意図を満たしにくい。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

イ：敷地条件・法規を守って敷地内に計画する必要がある。

ウ：交流用途等では関連室との接続を検討する必要がある。

エ：屋外空間は室内の用途とつながることで実用性が高まる。

総合解説：令和7年課題では屋外テラスが主要な要求要素だった。外部空間も内部空間との関係で評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0025

5-1 設計条件・エスキス > 動線・配置・外構 | 難易度：標準

日常動線と避難動線を計画する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．日常的に分かりやすい経路を基本としつつ、行き止まりや私室通過等を避け、法令・設計条件に適合する避難経路を確保する。

イ．避難時だけ壁を通り抜けられる前提で計画する。

ウ．避難経路を収納室の奥に設け、荷物で塞がれる計画とする。

エ．日常動線が成立していれば、避難条件は一切確認しなくてよい。

答え・解説

正答：ア

ア：避難経路は緊急時だけの特殊な線ではなく、平面計画の基本骨格と整合させることが重要である。

イ：実際に通行可能な経路を確保する必要がある。

ウ：安全かつ継続的に使用できる経路が必要である。

エ：避難は重大な設計条件であり、公式判定基準でも違反が問題となる。

総合解説：令和7年では避難経路に関する設計条件違反も不合格傾向として示されている。平面初期からチェックする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0026

5-1 設計条件・エスキス > 動線・配置・外構 | 難易度：標準

複数室の出入口が階段付近へ集まる平面での計画として、最も適切なものはどれか。

ア．階段最上段へ室扉が直接開き、開いた扉で階段を塞ぐ計画とする。

イ．階段昇降者と各室出入りが衝突しないよう、踊場・ホール・扉の開閉範囲を含めて余裕を確保する。

ウ．階段幅を廊下の余り寸法で決め、必要寸法は確認しない。

エ．階段前へ大型収納を突出させ、通路幅を最小限にする。

答え・解説

正答：イ

ア：転落や通行阻害の危険があり不適切である。

イ：階段周辺は人が集中しやすく、扉の開閉や家具との干渉を避ける必要がある。

ウ：階段には法令・安全上の寸法条件がある。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

エ：避難・日常通行を妨げない有効幅を確保する必要がある。

総合解説：階段周辺は平面・断面・避難が交わるため、扉・廊下・踊場の関係を詳細に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0027

5-1 設計条件・エスキス > 動線・配置・外構 | 難易度：標準

ごみ搬出や設備点検などのサービス動線を計画する際、最も適切な考え方はどれか。

ア．ごみ搬出は必ずリビング中央を通る計画とする。

イ．設備点検経路を家具で塞ぐ前提とする。

ウ．利用頻度と管理方法を考え、主要な居住・来客動線を不必要に横切らず、外部へ合理的につながる経路を確保する。

エ．サービス動線は設計製図では全く考慮しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：衛生・運用上の干渉が大きい。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

イ：維持管理時にアクセス可能な計画が必要である。

ウ：サービス動線を整理すると、日常運用の負担と衛生・プライバシー上の干渉を減らせる。

エ：計画一般には設備・管理面の合理性も含まれる。

総合解説：設計製図では美しい平面だけでなく、実際に建物を運用・維持管理できるかを考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0028

5-1 設計条件・エスキス > 動線・配置・外構 | 難易度：標準

道路と敷地に高低差がある練習課題で、アプローチ計画として最も適切なものはどれか。

ア．高低差を図面から消して、道路と1階床が同じ高さであることにする。

イ．外構勾配を確認せず、短い距離で急激に全高低差を処理する。

ウ．平面図と配置図で玄関レベルを別々に設定する。

エ．段差処理に必要な階段・スロープ等のスペースを配置段階から確保し、出入口レベルと外構勾配を整合させる。

答え・解説

正答：エ

ア：与条件を無視しており不適切である。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

イ：利用者安全や法令・使い勝手を確認する必要がある。

ウ：図面相互の整合を確保する必要がある。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

エ：高低差は配置図だけでなく建物の床レベルや玄関納まりに影響する。

総合解説：敷地高低差はエスキスの早期に処理しないと、玄関・駐車・外構・断面計画が成立しなくなる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0029

5-1 設計条件・エスキス > 動線・配置・外構 | 難易度：応用

道路に近い居室の採光を確保しつつ、プライバシーにも配慮する方法として最も適切な考え方はどれか。

- ア．前庭・植栽・窓位置・腰壁等を組み合わせ、採光を確保しながら道路からの直接視線を抑える。
- イ．採光のため窓を道路側全面ガラスとし、視線対策は一切行わない。
- ウ．プライバシー確保のため全窓をなくし、採光条件を無視する。
- エ．外構植栽は平面計画や視線制御に利用できない。

答え・解説

正答：ア

- ア：居室を道路から単純に遠ざけるだけでなく、外構と開口計画で環境を調整できる。
- イ：住宅のプライバシーに配慮する必要がある。
- ウ：居室の採光・換気等を成立させる必要がある。
- エ：植栽や塀は外部空間の視線調整に有効である。

総合解説：外構は残った敷地を埋める要素ではなく、採光・視線・動線・景観を調整する計画手段である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0030

5-1 設計条件・エスキス > 動線・配置・外構 | 難易度：応用

1階平面図では階段が北側にあるのに、2階平面図では階段が南側に描かれている答案について、最も適切な評価はどれか。

- ア．各階平面図は独立して評価されるので問題ない。
- イ．上下階の階段位置が一致せず、図面相互の重大な不整合となるため、重大な不適合になり得る。
- ウ．階段名称が同じなら位置が違ってても接続しているとみなす。
- エ．床伏図でだけ階段位置を合わせれば、平面図同士の不整合は無視できる。

答え・解説

正答：イ

- ア：上下階の重大な不整合は公式判定基準で重大な不適合の例に挙げられている。
- イ：階段は上下階を物理的につなぐため、位置・向き・上り下りを図面間で一致させる必要がある。
- ウ：図面上で実際に上下が一致している必要がある。
- エ：要求図書相互で整合していることが必要である。

総合解説：製図試験では平面の成立だけでなく、各階平面・床伏・立面・詳細の相互整合が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0031

5-2 法規・計画チェック > 道路・建蔽率・容積率・高さ | 難易度：基礎

都市計画区域等内の一般的な建築敷地について、接道条件の基本として最も適切なものはどれか。

- ア．道路の種類に関係なく、敷地が1点でも道路に触れていればよい。
- イ．道路に接していなくても、隣地を通れそうなら確認不要である。
- ウ．原則として、建築基準法上の道路に2m以上接することを確認する。
- エ．接道条件は配置図に関係せず、平面計画だけで判断する。

答え・解説

正答：ウ

ア：原則として法上の道路へ2m以上接する必要がある。

イ：接道義務を満たすか法令上の確認が必要である。

ウ：敷地が道路に接していても、その道が法上の道路か、接道長さが足りるかを確認する必要がある。

エ：道路境界と敷地接道は配置計画の基本条件である。

総合解説：設計製図では、道路種別、幅員、境界、接道長さを最初に確認し、建物配置やアプローチへ反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0032

5-2 法規・計画チェック > 道路・建蔽率・容積率・高さ | 難易度：基礎

幅員4m未満の法42条2項道路に接する敷地で、道路中心線から2m後退する部分が生じる場合の面積計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．後退部分も私有地であれば全て敷地面積に算入できる。
- イ．後退部分へ建物本体を配置し、その面積も建築面積に算入する。
- ウ．道路後退は完成後に考えればよく、エスキス時の敷地寸法は元のままでよい。
- エ．道路とみなされる後退部分を敷地面積に算入せず、建蔽率・容積率等を検討する。

答え・解説

正答：エ

ア：法上道路とみなされる部分は敷地面積から除外して扱う。

イ：道路後退部分には原則として建築物等を突出させない。

ウ：有効敷地寸法・面積が変わるためエスキス初期に反映する必要がある。

エ：2項道路の後退部分は建築敷地として利用できないため、面積算定の前提から除く。

総合解説：2項道路は配置・面積・建蔽率・容積率を同時に変えるため、見落とすと大きな計画変更につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0033

5-2 法規・計画チェック > 道路・建蔽率・容積率・高さ | 難易度：基礎

敷地面積 150m^2 、適用建蔽率60%とする。建築面積の上限として正しいものはどれか。

ア． 90m^2 。 $150\text{m}^2 \times 0.60 = 90\text{m}^2$ である。

イ． 60m^2 。建蔽率60%を面積 60m^2 と取り違えている。

ウ． 150m^2 。敷地全体を建築面積としている。

エ． 250m^2 。敷地面積を建蔽率で割っている。

答え・解説

正答：ア

ア：建蔽率は建築面積の敷地面積に対する割合なので、敷地面積へ適用建蔽率を乗じる。

イ：敷地面積 150m^2 に60%を掛ける必要がある。

ウ：建蔽率60%の制限を超える。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

エ：建築面積上限は敷地面積×建蔽率で求める。

総合解説：設計製図では面積表を描く前に、建蔽率から建築面積上限を算出し、1階外形の目安を持つ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0034

5-2 法規・計画チェック > 道路・建蔽率・容積率・高さ | 難易度：標準

第一種住居地域の練習条件として、指定容積率200%、前面道路幅員4m、道路幅員による係数0.4とする。適用容積率の上限として正しいものはどれか。

ア．80%。道路幅員4mを指定容積率200%へそのまま乗じた値ではない。

イ．160%。 $4\text{m} \times 0.4 = 1.6$ 、すなわち160%で、指定容積率200%より厳しい。

ウ．200%。指定容積率だけを見て道路幅員による制限を無視している。

エ．400%。4mを百分率へ置き換えただけである。

答え・解説

正答：イ

ア：道路幅員×係数で160%を求める。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

イ：前面道路幅員による限度と指定容積率を比較し、小さい方を適用する。

ウ：前面道路が狭い場合は道路幅員による上限も確認する。

エ：法定の係数を用いて算定する必要がある。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

総合解説：容積率は都市計画の指定値だけでなく、前面道路幅員による制限もチェックする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0035

5-2 法規・計画チェック > 道路・建蔽率・容積率・高さ | 難易度：標準

敷地面積 120m^2 、適用容積率 160% の敷地に、容積率算定上の延べ面積が 185m^2 の建物を計画した。最も適切な判定はどれか。

- ア．不適合である。許容延べ面積は 160m^2 である。
- イ．不適合である。許容延べ面積は 120m^2 である。
- ウ．適合する。許容延べ面積は $120 \times 1.60 = 192\text{m}^2$ で、 185m^2 はこれ以下である。
- エ．適合するが、延べ面積は何 m^2 でもよく上限はない。

答え・解説

正答：ウ

ア： 160% は面積 160m^2 という意味ではなく、敷地面積に乘じる。

イ：容積率 100% の場合の上限であり、条件は 160% である。

ウ：容積率算定上の延べ面積を許容上限と比較する。

エ：容積率による上限がある。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

総合解説：面積条件と法規を別々に管理せず、敷地面積から建築面積・延べ面積の法的上限を先に計算する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0036

5-2 法規・計画チェック > 道路・建蔽率・容積率・高さ | 難易度：標準

道路斜線制限が適用される敷地で、道路境界に近い側へ高い3階部分を計画する場合の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．建物が敷地内に収まっていれば、高さは道路条件と無関係である。
- イ．3階建てであれば道路斜線は必ず適用除外となる。
- ウ．道路側へ建物を近づけるほど、斜線制限上必ず高く建てられる。
- エ．道路幅員、建物の道路からの後退距離、用途地域等による斜線条件を確認し、高さ・配置を調整する。

答え・解説

正答：エ

ア：道路斜線等の高さ制限が適用される場合がある。

イ：階数だけで一律に適用除外とはならない。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

ウ：一般に後退距離等も斜線条件に関係するため、計算・確認が必要である。

エ：道路斜線は道路側の建物高さや配置に関係するため、立面・断面を描く前に成立性を確認する。

総合解説：高さ制限は平面完成後に見ると手戻りが大きい。道路側の建物位置と階高を早期に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0037

5-2 法規・計画チェック > 道路・建蔽率・容積率・高さ | 難易度：標準

住宅地の設計製図で建物高さを確認する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．用途地域を確認し、適用される絶対高さ・北側斜線・日影等の規制があるかを個別にチェックする。
- イ．住宅用途なら全国どこでも高さ制限は同じである。
- ウ．建蔽率が適合していれば、高さ規制は自動的に適合する。
- エ．道路斜線だけ確認すれば、他の高さ規制は存在しない。

答え・解説

正答：ア

ア：高さ規制は用途地域や地域指定によって異なるため、単一のルールだけで判断しない。

イ：用途地域・都市計画条件等で規制内容が異なる。

ウ：建蔽率と高さ制限は別の規定である。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

エ：北側斜線、絶対高さ、日影等も条件により確認する。

総合解説：法規チェックは『用途地域→道路→建蔽率・容積率→高さ→防火』のように順序化すると漏れが減る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0038

5-2 法規・計画チェック > 道路・建蔽率・容積率・高さ | 難易度：標準

建蔽率チェックで使用する面積として、最も適切なものはどれか。

- ア．必ず延べ面積を使用する。
- イ．建築物の水平投影による建築面積を用い、単純に1階床面積と同じと決めつけず庇・バルコニー等の算入条件も確認する。
- ウ．必ず2階床面積だけを使用する。
- エ．敷地面積をそのまま建築面積とする。

答え・解説

正答：イ

ア：延べ面積は主に容積率で使用する。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

イ：建築面積と床面積は定義が異なり、突出部分等の扱いも法令に従う。

ウ：建築面積は建物全体の水平投影の考え方で算定する。

エ：実際の建築物の投影面積を算定する。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

総合解説：設計製図では建築面積、各階床面積、延べ面積を区別して面積表へ反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0039

5-2 法規・計画チェック > 道路・建蔽率・容積率・高さ | 難易度：応用

道路後退によって有効敷地面積が160㎡から150㎡へ減少した。建物外形を変えない場合の影響として、最も適切なものはどれか。

- ア．敷地面積が減っても建蔽率・容積率は全く変わらない。
- イ．建蔽率だけ再計算し、容積率は敷地面積と無関係なので確認不要である。
- ウ．建蔽率・容積率の分母となる敷地面積が小さくなるため、両方の適合性を再計算する必要がある。
- エ．道路後退後は建築面積・延べ面積の上限が必ず増える。

答え・解説

正答：ウ

ア：同じ建物面積なら割合は大きくなる。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

イ：容積率も敷地面積を分母とする。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

ウ：敷地面積の変更は複数の法規計算へ連動するため、片方だけ再確認してはならない。

エ：通常は有効敷地面積が減るため上限も厳しくなる方向である。

総合解説：条件修正が起きたら、関連する計算項目を連鎖的に見直すことが製図試験のミス防止につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0040

5-2 法規・計画チェック > 道路・建蔽率・容積率・高さ | 難易度：応用

木造3階建て課題のエスキスで高さ関係の法規チェックを行う時期として、最も適切なものはどれか。

- ア．5時間の最後に立面図を描き終えてから初めて確認する。
- イ．平面図には関係しないので、法規チェックを一切しない。
- ウ．課題名が木造3階建てなら、高さ関係法規は自動的に適合している。
- エ．階高・屋根形状・道路側配置の概略が決まった段階で早期に確認し、必要なら平面配置へ戻って調整する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適合時に全図面を修正する時間が不足しやすい。

イ：建物位置と高さ制限は相互に関係する。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

ウ：設計条件と法令の両方を確認する必要がある。

エ：3階建てでは高さ制限に抵触した場合の手戻りが大きいいため、立面作図直前まで放置しない。

総合解説：令和8年課題は木造3階建てであるため、高さ・防火・構造条件を早期に整理する訓練が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0041

5-2 法規・計画チェック > 採光・換気・防火・避難 | 難易度：基礎

住宅の居室の採光計画を確認する際、最も適切な考え方はどれか。

ア．単に窓があるかだけでなく、窓の位置・外部条件等を反映した有効採光面積が法定基準を満たすか確認する。

イ．窓が一つでも描かれていれば、大きさや外部条件に関係なく適合する。

ウ．居室が建物中央にあって外壁に面しなくても、室名が居室なら自動的に採光適合となる。

エ．採光は設備設計だけの問題で、平面図には関係しない。

答え・解説

正答：ア

ア：採光規定では開口部の実面積だけでなく、有効採光面積として評価する必要がある。

イ：採光に有効な開口面積を確認する必要がある。

ウ：居室の採光条件を具体的に成立させる必要がある。

エ：窓位置と室配置は平面計画の基本事項である。

総合解説：採光は室配置段階で成立性を確認する。最後に窓を足すだけでは外部条件や家具計画と整合しないことがある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0042

5-2 法規・計画チェック > 採光・換気・防火・避難 | 難易度：基礎

自然換気による居室の換気を検討する際、最も適切な考え方はどれか。

ア．FIX窓だけを設ければ、自然換気用開口として常に十分である。

イ．開閉できる窓等の換気上有効な開口部を確保し、必要面積を法令に基づいて確認する。

ウ．換気は室面積と無関係で、最小の開口一つで必ず適合する。

エ．機械換気を設ける場合でも、機器位置や給気経路は一切検討不要である。

答え・解説

正答：イ

ア：開閉できない窓は自然換気用の開口として扱えない。

イ：固定窓は採光には使えても自然換気用開口としては機能しないため、開閉可能性を確認する。

ウ：法令上必要な換気開口面積等を確認する。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

エ：機械換気も給排気経路を含めて成立させる必要がある。

総合解説：居室計画では採光窓と換気窓の役割を区別し、開閉方式も確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0043

5-2 法規・計画チェック > 採光・換気・防火・避難 | 難易度：基礎

住宅内部の階段を計画する際の確認として、最も適切なものはどれか。

ア．平面図に階段記号があれば、蹴上げや踏面寸法は成立しなくてもよい。

イ．上下階の階高に関係なく段数を任意に決める。

ウ．有効幅、蹴上げ、踏面、踊場、頭上高さ等を法令・設計条件に合わせ、平面図と断面・詳細で整合させる。

エ．階段上部の床・梁との頭上クリアランスは確認しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：実際の寸法条件を満たす必要がある。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

イ：階高と蹴上げから必要段数を整合させる。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

ウ：階段は単なる記号ではなく、実際の昇降寸法が成立している必要がある。

エ：昇降安全のため断面で確認する必要がある。

総合解説：階段は重大な不適合を生みやすい箇所である。位置だけでなく段数・寸法・吹抜け・床伏まで一体で確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0044

5-2 法規・計画チェック > 採光・換気・防火・避難 | 難易度：標準

設計製図で避難・防火関係をチェックする方法として、最も適切なものはどれか。

ア．住宅部分が含まれていれば、併用部分も含め全ての防火・避難規定が適用されない。

イ．階数が増えても避難計画は平屋と同じでよい。

ウ．防火区画や内装制限は外観デザインだけで決まる。

エ．建物用途、階数、規模、室用途を確認したうえで、必要な階段・防火区画・内装・排煙等の適用条件を個別に確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：併用用途では各用途・規模に応じた規定を確認する必要がある。

イ：上階からの避難経路・階段等を確認する必要がある。

ウ：用途・面積・構造等の法令条件で適用を判断する。

エ：避難・防火規定は用途・規模によって適用が変わるため、住宅だから全て同じとは限らない。

総合解説：防火・避難は単一の暗記値ではなく、用途・階・規模の条件分岐を確認することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0045

5-2 法規・計画チェック > 採光・換気・防火・避難 | 難易度：標準

店舗等を併用する住宅の防火計画として、最も適切な考え方はどれか。

ア．用途・規模・構造条件に応じて、住宅部分と非住宅部分の間に必要な防火上の区画や開口部措置があるか確認する。

イ．住宅と店舗が同じ建物なら、用途境界は防火上常に無関係である。

ウ．防火区画が必要でも、壁に大きな常開口を設ければ区画性能は維持できる。

エ．用途境界は面積表だけの問題で、平面計画に影響しない。

答え・解説

正答：ア

ア：併用用途では用途境界が防火計画上の要点になるため、問題条件と法令を照合する。

イ：用途の組合せ・規模により区画等が必要となる場合がある。

ウ：開口部にも所定の防火設備等が必要となる場合がある。

エ：壁・建具・動線計画へ影響する。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

総合解説：令和8年課題は併用住宅であるため、未公表の用途詳細を推測せず、当日条件に応じた用途境界チェックができるよう準備する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0046

5-2 法規・計画チェック > 採光・換気・防火・避難 | 難易度：標準

階段へ至る避難経路の計画として、最も適切なものはどれか。

ア．避難経路上へ収納扉を常時開いた状態で突出させる。

イ．扉の開閉や家具配置後も必要な通行幅を確保し、経路が明確で行き止まり等の問題がないようにする。

ウ．階段前へ家具を置く前提で、有効幅を計算しない。

エ．避難経路が私室内部を通過しても、室名が廊下に近ければ問題ない。

答え・解説

正答：イ

ア：通行幅を狭め、避難を妨げる。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

イ：図面上の廊下幅だけでなく、扉・収納・設備の突出後の有効通行を確認する。

ウ：実際に通行できる幅を確保する必要がある。

エ：避難経路として成立する明確な通路を確保する必要がある。

総合解説：製図答案では、扉の軌跡、家具、階段、廊下の重なりを見落とさないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0047

5-2 法規・計画チェック > 採光・換気・防火・避難 | 難易度：標準

居室の窓を隣地境界に極端に近づけて計画する場合の採光チェックとして、最も適切なものはどれか。

- ア．窓が大きければ、境界との距離や上部障害物は全く影響しない。
- イ．隣地境界側の窓は全て採光上無効である。
- ウ．窓前の外部空間や隣地境界との関係が有効採光面積に影響するため、単純な窓面積だけでなく採光補正を確認する。
- エ．採光は窓ガラスの色だけで決まる。

答え・解説

正答：ウ

ア：有効採光面積の評価では外部条件が関係する。
イ：条件に応じて有効性を算定するので一律無効ではない。
ウ：採光の有効性は窓の位置と外部条件で変化する。
エ：法的な採光評価は開口条件等で算定する。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。
総合解説：エスキスでは窓を描ける外壁面を確保するだけでなく、法的に採光が成立するかを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0048

5-2 法規・計画チェック > 採光・換気・防火・避難 | 難易度：標準

上階に吹抜けを設ける場合の計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．吹抜け端部に手すりを描かず、利用者が注意すればよい。
- イ．平面図では吹抜け、床伏図では床を連続させる。
- ウ．吹抜け上に家具を配置して転落防止の代わりとする。
- エ．吹抜け周囲に安全な手すり等を設け、動線・家具配置・床伏図でも開口範囲を一致させる。

答え・解説

正答：エ

ア：転落防止措置を計画する必要がある。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。
イ：図面相互で床開口範囲を一致させる必要がある。
ウ：家具は恒久的な転落防止設備ではない。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。
エ：吹抜けは転落防止と図面整合の両方を確認する必要がある。
総合解説：吹抜けは計画上の魅力だけでなく、安全・構造・面積・図面整合まで確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0049

5-2 法規・計画チェック > 採光・換気・防火・避難 | 難易度：応用

防火地域・準防火地域等で外壁開口部を計画する場合の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．地域指定、建物構造、開口部位置等を確認し、延焼のおそれのある部分に必要な防火設備を適切に設ける。

イ．窓であれば全て普通ガラスでよく、防火地域指定は関係しない。

ウ．延焼のおそれのある部分は室内側の家具配置で判断する。

エ．防火設備の要否は面積表だけで確認できる。

答え・解説

正答：ア

ア：防火設備の要否は開口部の方位だけでなく、隣地境界・道路中心線等との関係と地域指定で判断する。

イ：条件により防火設備が必要となる。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

ウ：外壁開口部と境界等の位置関係で法的に判断する。

エ：配置図・平面図で開口位置を確認する必要がある。

総合解説：防火チェックは用途、地域、構造、境界との距離、開口部仕様を組み合わせで行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0050

5-2 法規・計画チェック > 採光・換気・防火・避難 | 難易度：応用

階段・廊下・採光等の設計で、法定最低値を満たしている案を評価する際の考え方として最も適切なものはどれか。

ア．法定最低値を満たせば、扉が開かない・家具が置けない等の問題は評価に影響しない。

イ．法規適合を最低条件とし、そのうえで家具・動線・利用人数等を考慮して実用上無理のない寸法・配置とする。

ウ．使いやすければ法令違反でも問題ない。

エ．法規と計画品質は別問題なので、どちらか一方だけ確認すればよい。

答え・解説

正答：イ

ア：著しく非常識な計画は重大な不適合となり得る。

イ：製図試験では法令に適合するだけでなく、計画一般や非常識な計画でないことも評価される。

ウ：法令適合は必須条件である。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

エ：両方を同時に成立させる必要がある。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

総合解説：設計製図は法規暗記試験ではなく、法規を満たした実用的な建築計画を短時間でまとめる試験である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0051

5-2 法規・計画チェック > 設計条件・重大な不適合の判定 | 難易度：基礎

要求図書として複数の図面が指定された試験で、そのうち1面をほぼ未記入のまま提出した。最も適切な評価はどれか。

- ア．他の図面が丁寧なら未完成図面は自動的に免除される。
- イ．未完成でも室名だけ書けば完成とみなされる。
- ウ．要求図書の未完成として重大な不適合に該当し得る。
- エ．製図試験は平面図だけ採点するので他図面は不要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：要求図書は所定の全図面を完成させる必要がある。

イ：必要な図面情報を記入して成立させる必要がある。

ウ：令和7年の合否判定基準では、要求図書のうち図面が1面以上未完成であるものが重大な不適合として示されている。

エ：要求図書全体が採点対象となる。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

総合解説：時間配分では『未完成を出さない』ことを最優先にする。高精度な一枚より、要求図書全体の完成が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0052

5-2 法規・計画チェック > 設計条件・重大な不適合の判定 | 難易度：基礎

問題文で必須とされた主要室を一室だけ描き忘れた答案について、最も適切な評価はどれか。

- ア．面積表に室名を書けば、平面図に室がなくても問題ない。
- イ．他の室を広くすれば、欠落した室の代わりになる。
- ウ．一室程度の欠落は図面の見栄えで相殺される。
- エ．主要要求室の欠落として重大な不適合に該当し得る。

答え・解説

正答：エ

ア：要求室は実際の平面計画として設ける必要がある。

イ：要求室ごとの用途条件を満たす必要がある。

ウ：主要要求室の欠落は評価上重大である。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

エ：過去の合否判定基準では、指定された主要室の欠落が重大な不適合の具体例とされている。

総合解説：主要室はエスキス、作図開始前、最終チェックの3回確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0053

5-2 法規・計画チェック > 設計条件・重大な不適合の判定 | 難易度：基礎

『2階に設ける』と指定された主要室を1階に計画した場合の評価として、最も適切なものはどれか。

- ア．設置階の指定違反として重大な不適合に該当し得る。
- イ．室が存在していれば階は自由である。
- ウ．階を間違えても面積が同じなら自動的に適合する。
- エ．室名の横に『2階相当』と書けば1階配置でもよい。

答え・解説

正答：ア

ア：要求室の存在だけでなく、設置階も与条件として守る必要がある。

イ：設置階指定は設計条件の一部である。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

ウ：面積とは別に設置階条件を満たす必要がある。

エ：実際の図面上の階位置が指定に適合する必要がある。

総合解説：設計条件チェック表には、室名・階・面積・特記事項を同じ行に整理すると階違いを防ぎやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0054

5-2 法規・計画チェック > 設計条件・重大な不適合の判定 | 難易度：標準

1階平面図の柱・階段位置と2階平面図が大きく食い違い、物理的に上下がつかない答案について、最も適切な評価はどれか。

- ア．各図面が単独で見やすければ不整合は問題ない。
- イ．図面相互の重大な不整合として重大な不適合に該当し得る。
- ウ．立面図を省略すれば平面図の不整合は見つからないので問題ない。
- エ．柱や階段は施工時に自由に移動できるので製図答案では整合不要である。

答え・解説

正答：イ

ア：要求図書は同一建築物を表すため相互整合が必要である。

イ：公式基準では上下階等の重大な不整合がランクⅣとなる要因として示されている。

ウ：要求図書の未完成も重大な問題となる。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

エ：構造・動線が成立する位置関係を図面で示す必要がある。

総合解説：図面完成後は、階段・吹抜け・柱・外壁・開口・屋根などを上下階で照合する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0055

5-2 法規・計画チェック > 設計条件・重大な不適合の判定 | 難易度：標準

課題条件で延べ面積を120㎡以上130㎡以下と指定され、答案の延べ面積が132㎡であった。最も適切な評価はどれか。

- ア．2㎡程度の超過なら自動的に許容される。
- イ．主要室が全てあれば面積上限は無視できる。
- ウ．面積条件違反となり、重大な不適合に該当し得る。
- エ．面積表に130㎡と書けば、図面実測が132㎡でも適合する。

答え・解説

正答：ウ

ア：問題文に許容差が示されない限り、指定範囲内に納める必要がある。

イ：主要室条件と面積条件の両方を満たす必要がある。

ウ：指定された上限・下限は設計条件であり、わずかな超過でも条件外となる。

エ：面積表と図面が一致し、実際に条件を満たす必要がある。

総合解説：面積違反は過去基準で重大な不適合として示されている。作図途中にも外形寸法から再計算する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0056

5-2 法規・計画チェック > 設計条件・重大な不適合の判定 | 難易度：標準

2階以上に要求室がある建物で、平面図に階段その他の上下移動手段が全くない答案について、最も適切な評価はどれか。

- ア．上階は外部から飛び移る前提とすれば成立する。
- イ．要求室が全て描かれていれば階段は不要である。
- ウ．階段は床伏図だけに描けば平面図には不要である。
- エ．著しく非常識な計画として重大な不適合に該当し得る。

答え・解説

正答：エ

ア：実用的・安全な上下移動経路が必要である。

イ：各階を利用できる動線が成立していなければ建築計画として不合理である。

ウ：各階平面図で位置と動線を明確に示す必要がある。

エ：過去の公式基準でも階段欠落が著しく非常識な計画の具体例として示されている。

総合解説：重大な不適合は数値違反だけではなく、建築として成立しない非常識な計画も含む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0057

5-2 法規・計画チェック > 設計条件・重大な不適合の判定 | 難易度：標準

課題で吹抜けの大きさが明確に指定されているのに、答案では指定より大幅に小さく計画した。最も適切な評価はどれか。

- ア．設計条件違反として重大な不適合に該当し得る。
- イ．吹抜けが少しでも存在すれば大きさ条件は無視できる。
- ウ．床面積を増やせるので、吹抜けは小さいほど高評価になる。
- エ．吹抜けは装飾要素なので採点対象にならない。

答え・解説

正答：ア

ア：令和7年試験では吹抜けの大きさに関する条件違反が不合格答案の傾向として公表されている。
イ：数値・寸法条件も設計与条件として満たす必要がある。
ウ：要求条件を満たすことが最優先である。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。
エ：課題で指定された場合は主要な設計条件となる。
総合解説：要求条件のうち数値指定されたものは赤丸等でマーキングし、作図中にもチェックする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0058

5-2 法規・計画チェック > 設計条件・重大な不適合の判定 | 難易度：標準

問題文で避難経路に関する明確な条件が示されているのに、その経路が家具や壁で行き止まりとなる答案について、最も適切な評価はどれか。

- ア．日常時に使わなければ避難経路は塞いでもよい。
- イ．設計条件違反・避難計画不成立として重大な不適合に該当し得る。
- ウ．避難経路は答案上の矢印だけ描けば、壁を通過してもよい。
- エ．主要室の面積が大きければ避難条件違反は相殺される。

答え・解説

正答：イ

ア：緊急時に機能する実在の経路が必要である。
イ：避難条件は安全上重要であり、令和7年でも避難経路に関する設計条件違反が不合格傾向として示されている。
ウ：物理的に通行可能な計画である必要がある。
エ：安全に関する条件は独立して満たす必要がある。
総合解説：避難動線は平面完成後ではなく、ゾーニング段階から計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0059

5-2 法規・計画チェック > 設計条件・重大な不適合の判定 | 難易度：応用

試験終了30分前の最終チェックで優先すべき項目として、最も適切なものはどれか。

- ア．植栽記号の描き込みだけに残り時間を使い、面積や要求室は確認しない。
- イ．文字の美しさだけを確認し、未完成図面の有無は見ない。
- ウ．要求図書の完成、主要室・設置階、面積、階段・吹抜け、法規条件、図面相互整合を優先して確認する。
- エ．図面相互の位置関係は採点されないので確認しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：重大な条件違反を見逃す危険がある。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

イ：要求図書未完成は重大な不適合になり得る。

ウ：重大な不適合に直結する項目を先に潰し、その後に文字・線の見栄えを整える方が合理的である。

エ：上下階等の重大な不整合は公式基準で重大な不適合とされている。

総合解説：最終チェックは採点上の致命傷から順に行う。『未完成・欠落・面積・条件違反・不整合』を最優先にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0060

5-2 法規・計画チェック > 設計条件・重大な不適合の判定 | 難易度：応用

2026年9月3日時点の令和8年二級建築士設計製図について、重大な不適合の学習で最も適切な姿勢はどれか。

- ア．予想問題の主要室を令和8年公式の重大不適合項目として断定する。
- イ．過去の重大不適合は今後一切参考にならないので無視する。
- ウ．公表された要求図書も予想情報と同じ扱いで無視する。
- エ．公式公表済みの課題名・要求図書・注意事項と過去の合否判定基準を根拠に学習し、令和8年の未公表の主要室や数値条件を確定事項として扱わない。

答え・解説

正答：エ

ア：公式未公表の具体条件を確定事項として扱ってはならない。

イ：未完成・不整合・条件違反等の基本的な失格要因を学ぶ資料として有用である。

ウ：要求図書はJAEICが正式に公表した令和8年情報である。

エ：令和8年本試験は9月13日実施予定で、詳細問題はまだ公開されていないため、推測と公式情報を区別する必要がある。

総合解説：本教材では、令和8年の具体的な未公表条件を作らず、公式に確認できる事項と一般的な設計技能を分けて扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0061

5-3 木造・RC構造計画 > 木造架構・耐力壁計画 | 難易度：基礎

木造軸組構法の平面計画で耐力壁を配置する際、最も適切な考え方はどれか。

ア．建物の各方向に必要な耐力壁を確保し、平面的な偏りを抑えてできるだけバランスよく配置する。

イ．必要壁量が足りていれば、全ての耐力壁を建物の一隅へ集中してよい。

ウ．一方向の耐力壁だけを十分に設ければ、直交方向の壁は不要である。

エ．耐力壁の配置は室名だけで決め、上下階や外周との関係は確認しない。

答え・解説

正答：ア

ア：耐力壁が一方へ偏ると地震時にねじれが生じやすいため、壁量だけでなく配置バランスも重要である。

イ：壁の偏在は剛心の偏りを生み、ねじれ応答を大きくしやすい。

ウ：地震・風は複数方向から作用するため、各方向の水平抵抗を確保する必要がある。

エ：荷重伝達と平面バランスを含めて配置する必要がある。

総合解説：木造の耐震計画では『壁量・壁配置・接合部・床の一体性』をまとめて考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0062

5-3 木造・RC構造計画 > 木造架構・耐力壁計画 | 難易度：基礎

木造3階建ての耐力壁計画として、最も適切なものはどれか。

ア．3階の耐力壁を、1・2階の大開口の真上へ集中配置する。

イ．上階の耐力壁からの力を下階へ素直に伝えられるよう、可能な範囲で上下階の耐力壁・柱位置をそろえる。

ウ．各階の耐力壁位置を意図的に全てずらす。

エ．上下階の壁位置は製図試験では確認されないので無関係である。

答え・解説

正答：イ

ア：下階に受ける要素がなく、力の流れが不連続になりやすい。

イ：上下階で主要な耐力要素が連続すると、荷重伝達経路が明確になり構造計画が安定する。

ウ：梁等への負担が増え、架構が複雑になる。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

エ：構造に対する理解・架構計画は公式の採点ポイントに含まれる。

総合解説：令和8年課題は木造3階建てであるため、上下階の壁・柱連続性を意識したエスキスが特に重要になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0063

5-3 木造・RC構造計画 > 木造架構・耐力壁計画 | 難易度：基礎

道路側に店舗等の大きな開口を設けたい木造併用住宅の構造計画として、最も適切な考え方はどれか。

- ア．道路側を全面開口とし、他の方向の耐力壁も全て取り除く。
- イ．大開口直上へ上階の耐力壁を集中すれば、下階に受ける壁や梁は不要である。
- ウ．開口を確保しつつ、両側壁・内部壁・直交壁等に必要な耐力要素を計画し、偏心や下階の弱層化を避ける。
- エ．店舗開口がある場合は耐震計画を行わなくてよい。

答え・解説

正答：ウ

- ア：水平力に抵抗する壁が不足し、構造計画として成立しにくい。
 - イ：上階からの力を受ける架構を下階に計画する必要がある。
 - ウ：大開口は意匠・用途上必要でも、耐力壁を失うため他の位置で水平抵抗を確保する必要がある。
 - エ：用途にかかわらず構造安全性を確保する必要がある。
- 総合解説：併用住宅では1階に開口が大きくなりやすいため、用途計画と耐力壁計画を同時に考える必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0064

5-3 木造・RC構造計画 > 木造架構・耐力壁計画 | 難易度：標準

木造のエスキスで910mm程度のモジュールを用いる主な利点として、最も適切なものはどれか。

- ア．全ての室を必ず910mm角にしなければならない。
- イ．モジュールを使うと耐力壁の検討が不要になる。
- ウ．モジュールはRC造だけに用いる考え方で、木造には適用できない。
- エ．柱・壁・建具・床組等の寸法を整理しやすく、室寸法と架構計画を同時に検討しやすい。

答え・解説

正答：エ

- ア：モジュールは計画の基準であり、室を1マスに限定するものではない。
 - イ：壁量・配置等は別途確認する必要がある。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。
 - ウ：木造では柱間・面材寸法等と相性がよく広く用いられる。
 - エ：規則的なモジュールは作図速度と構造・納まりの整合に有利である。
- 総合解説：製図試験ではモジュールを使って室・柱・壁・開口を整理すると、平面と床伏の整合を取りやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0065

5-3 木造・RC構造計画 > 木造架構・耐力壁計画 | 難易度：標準

木造平面で耐力壁が建物の南側に多く、北側にほとんどない場合に生じやすい問題として、最も適切なものはどれか。

- ア．地震時に平面的なねじれが生じやすくなり、特定の壁や接合部へ変形・応力が集中する。
- イ．壁が偏るほど建物全体のねじれは必ず小さくなる。
- ウ．北側に壁がなくても、床があるだけで偏心は必ずゼロになる。
- エ．耐力壁は鉛直荷重だけを負担するので、平面配置は地震時に影響しない。

答え・解説

正答：ア

ア：重心と剛心のずれが大きくなるほど、並進だけでなくねじれ応答が生じやすい。

イ：偏心はねじれを増大させる方向に働く。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

ウ：床は力を分配するが壁配置の偏り自体は解消しない。

エ：耐力壁は水平力抵抗の主要要素である。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

総合解説：耐力壁配置は壁の総量だけでなく、建物の外周・内部へバランスよく分散することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0066

5-3 木造・RC構造計画 > 木造架構・耐力壁計画 | 難易度：標準

耐力壁の端部柱の柱頭・柱脚に接合金物を計画する主な理由として、最も適切なものはどれか。

- ア．柱を自由に浮き上がらせ、壁の変形を大きくするため。
- イ．地震・風時に耐力壁へ作用する転倒モーメントによる柱の引抜き力を、梁・土台・基礎へ確実に伝えるため。
- ウ．金物を設けると耐力壁が不要になるため。
- エ．柱頭柱脚接合は鉛直荷重だけに関係し、水平力には関係しない。

答え・解説

正答：イ

ア：柱脚・柱頭の浮き上がりは耐力壁性能を低下させる。

イ：耐力壁のせん断抵抗は壁材だけでなく、端部柱の引抜き抵抗と接合部で成立する。

ウ：金物は耐力壁の力を伝えるための接合要素である。

エ：耐力壁の水平力抵抗時に引抜き力が生じる。

総合解説：木造架構では『壁→端柱→金物→土台・梁→基礎』という力の流れを意識する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0067

5-3 木造・RC構造計画 > 木造架構・耐力壁計画 | 難易度：標準

木造3階建てで柱の鉛直荷重を考える場合、最も適切な考え方はどれか。

- ア．3階柱だけが建物全体の鉛直荷重を負担し、1階柱には荷重が伝わらない。
- イ．上階の柱を下階の梁の支間中央へ多数配置するほど、梁への負担が小さくなる。
- ウ．下階の柱ほど上階・屋根からの荷重が累積しやすいため、柱・梁・基礎まで連続した荷重経路を確認する。
- エ．柱位置は室配置だけで決め、基礎位置との整合は不要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：荷重は上階から下階へ基礎まで伝達される。

イ：下階梁へ集中荷重が作用し、断面・たわみ上不利になりやすい。

ウ：3階建てでは上部の荷重が下階へ順次伝わるため、下階の支持条件が重要である。

エ：最終的に地盤へ荷重を伝える必要がある。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

総合解説：多層木造では、上階の柱・耐力壁を下階の支持要素上へ置くことが合理的な架構計画の基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0068

5-3 木造・RC構造計画 > 木造架構・耐力壁計画 | 難易度：標準

木造建築物の床組が耐震上果たす役割として、最も適切なものはどれか。

- ア．床は鉛直荷重だけを負担し、地震時の水平力伝達には関係しない。
- イ．床を細かく分断するほど水平力を均等に伝えやすい。
- ウ．耐力壁があれば床の接合・開口位置は全く関係しない。
- エ．各階に作用する水平力を集めて耐力壁へ伝達する水平構面として働く。

答え・解説

正答：エ

ア：面材床等は水平構面として重要な役割をもつ。

イ：連続性が失われると力を伝えにくくなる。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

ウ：床開口や接合部は水平力伝達経路へ影響する。

エ：床が十分に一体化されることで、地震力を各耐力壁へ分配できる。

総合解説：床伏図は単なる部材配置図ではなく、鉛直荷重と水平力の伝達経路を表す図面である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0069

5-3 木造・RC構造計画 > 木造架構・耐力壁計画 | 難易度：応用

木造で柱の少ない大きな共用室を計画する場合、最も適切な考え方はどれか。

ア．必要な無柱空間と梁スパンを確認し、上階柱・壁位置も考慮して、梁せい・架構方向が過大にならない室形状を検討する。

イ．室を広くするほど梁断面は小さくできる。

ウ．上階の耐力壁を大スパン梁中央へ集中させても梁への影響はない。

エ．架構方向は室形状や柱位置と無関係に決める。

答え・解説

正答：ア

ア：大空間は意匠上魅力的でも、長大スパンや上階集中荷重が梁へ大きな負担を与える。

イ：一般にスパンが大きくなるほど曲げ・たわみに対して大きな断面等が必要となる。

ウ：集中荷重により梁への負担が増える。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

エ：短辺方向に梁を掛ける等、合理的なスパンを検討する。

総合解説：エスキスで『大きな室を作る』ときは、その上に何が乗るか、どこへ梁を掛けるかを同時に考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0070

5-3 木造・RC構造計画 > 木造架構・耐力壁計画 | 難易度：応用

木造の平面エスキス確定前に行う構造チェックとして、最も適切な組合せはどれか。

ア．室名と家具配置だけを確認し、柱・壁は作図時に適当に追加する。

イ．柱・耐力壁の上下連続、壁の平面バランス、大開口周辺、梁スパン、階段・吹抜け開口、基礎への荷重伝達を確認する。

ウ．耐力壁の総長さだけ確認し、偏りや上下位置は見ない。

エ．床伏図を描けば平面図の構造チェックは不要である。

答え・解説

正答：イ

ア：後付けでは室・開口と干渉し、架構が不合理になりやすい。

イ：構造チェックは一項目だけでなく、鉛直・水平の力の流れと開口部をまとめて確認する。

ウ：配置・連続性も耐震性能に重要である。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

エ：床伏図は平面計画と整合して初めて成立する。

総合解説：設計製図では計画と構造を分離せず、エスキス段階で架構の成立性を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0071

5-3 木造・RC構造計画 > 床伏・小屋伏・木造詳細 | 難易度：基礎

木造の床伏図を作成する主な目的として、最も適切なものはどれか。

- ア．家具の色彩計画だけを示す。
- イ．各室の仕上げ材料だけを記載し、梁位置は示さない。
- ウ．梁・桁・床組・開口補強等の位置を示し、床荷重が柱・壁へどのように伝わるかを明確にする。
- エ．屋外植栽の種類を示す。

答え・解説

正答：ウ

ア：床伏図は構造部材配置を示す図面である。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

イ：仕上げ表とは役割が異なる。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

ウ：床伏図は平面図では分かりにくい水平部材の架構を示す。

エ：配置図・外構計画の内容であり床伏図ではない。

総合解説：令和8年課題では床伏図兼小屋伏図が要求図書として事前公表されているため、平面との整合が重要になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0072

5-3 木造・RC構造計画 > 床伏・小屋伏・木造詳細 | 難易度：基礎

木造床伏図で階段開口を設ける場合の架構として、最も適切な考え方はどれか。

- ア．開口部で切断した梁端を空中に浮かせたままにする。
- イ．階段開口は平面図にだけ描き、床伏図では床を全面連続させる。
- ウ．開口が大きいほど周囲の梁を減らす。
- エ．開口によって切れる床梁・根太等の荷重を受けられるよう、開口周囲に梁・受け材を配置して荷重経路を再構成する。

答え・解説

正答：エ

ア：荷重を支持部へ伝えられない。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

イ：図面不整合となり、構造的にも成立しない。

ウ：開口周囲には適切な補強・受け材が必要である。

エ：床開口は水平部材の連続性を切るため、周囲で荷重を受け替える必要がある。

総合解説：階段・吹抜け等の床開口は床伏図の重要チェック項目で、平面図と寸法・位置を一致させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0073

5-3 木造・RC構造計画 > 床伏・小屋伏・木造詳細 | 難易度：基礎

吹抜けを有する木造床伏図として、最も適切なものはどれか。

- ア．吹抜け部分には床を設けず、開口周囲に必要な梁を配置し、隣接床の荷重を支持できるようにする。
- イ．吹抜け範囲にも通常床梁を連続させ、床板を全面張りする。
- ウ．開口周囲の梁を全て省略する。
- エ．吹抜け位置を平面図と異なる場所に移す。

答え・解説

正答：ア

ア：吹抜けは床開口なので、その範囲と周囲架構を明確にする必要がある。

イ：平面図の吹抜けと矛盾する。 このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

ウ：隣接床端部を支持できなくなる。 このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

エ：要求図書相互で位置を一致させる必要がある。

総合解説：床伏では『床がある部分』だけでなく『床がない部分をどう受けるか』を描く。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0074

5-3 木造・RC構造計画 > 床伏・小屋伏・木造詳細 | 難易度：標準

長方形の木造平面で梁方向を決める一般的な考え方として、最も適切なものはどれか。

- ア．必ず建物の最長方向へ最長スパンで梁を掛ける。
- イ．柱・壁配置と上階荷重を確認しながら、可能な範囲で短いスパンを基本として合理的に梁を掛ける。
- ウ．梁方向は上階柱位置と無関係に決める。
- エ．梁を掛けず、床板だけで全鉛直荷重を柱へ伝える。

答え・解説

正答：イ

ア：不必要に梁負担が大きくなる場合がある。 このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

イ：スパンを短くすると曲げ・たわみを抑えやすく、梁断面を合理化しやすい。

ウ：上階柱の集中荷重をどこで受けるか確認する必要がある。

エ：床組として荷重伝達を成立させる必要がある。

総合解説：床伏の基本は『短く掛ける・受ける位置をそろえる・開口を補強する』である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0075

5-3 木造・RC構造計画 > 床伏・小屋伏・木造詳細 | 難易度：標準

木造の小屋伏図で確認する内容として、最も適切なものはどれか。

- ア．屋根仕上げの色だけを示し、構造部材は描かない。
- イ．敷地境界線だけを示す。
- ウ．棟木・母屋・小屋梁・垂木等の配置と支持関係を示し、屋根荷重を柱・壁へ伝える架構を確認する。
- エ．各室の家具配置だけを示す。

答え・解説

正答：ウ

ア：屋根伏図・仕上げ図とは役割が異なる。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

イ：配置図の内容である。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

ウ：小屋伏図は屋根の構造部材と荷重伝達を表す。

エ：平面計画の内容であり小屋伏図ではない。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

総合解説：令和8年要求図書には床伏図兼小屋伏図が含まれるため、屋根形状と小屋組を対応させる必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0076

5-3 木造・RC構造計画 > 床伏・小屋伏・木造詳細 | 難易度：標準

製図試験の木造計画で、特別な要求がない場合の屋根形状として一般に合理的な考え方はどれか。

- ア．建物外形に関係なく、谷を多数設けた複雑な屋根を優先する。
- イ．屋根形状は小屋伏図と無関係なので、立面だけで自由に決める。
- ウ．雨水の流れを考えず、低い部分へ四方から水を集中させる。
- エ．平面・架構に合った比較的単純な屋根形状とし、谷部や複雑な取合いを必要以上に増やさない。

答え・解説

正答：エ

ア：小屋組と防水納まりが複雑になりやすい。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

イ：屋根形状と小屋組は一致させる必要がある。

ウ：排水・雨仕舞を考慮する必要がある。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

エ：単純な屋根は小屋組・雨仕舞・作図の整合を取りやすい。

総合解説：製図試験では奇抜さより、計画・構造・防水が整合した明快な屋根計画が有利である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0077

5-3 木造・RC構造計画 > 床伏・小屋伏・木造詳細 | 難易度：標準

910mmモジュールで柱間が6Pの場合、柱芯々のスパンとして最も近いものはどれか。

- ア．5.46m。0.91m×6=5.46mである。
- イ．0.546m。桁を一つ小さく扱っている。
- ウ．6.91m。モジュール数を加算している。
- エ．54.6m。mとcmの換算を誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：P数を実寸へ変換できると、平面図と床伏図の梁スパンを素早く確認できる。

イ：910mmは0.91mなので6倍で5.46mとなる。

ウ：0.91mを6回分乗じる。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

エ：一般的な木造住宅の梁スパンとしても不合理な値である。

総合解説：木造製図ではグリッド寸法から実スパンを即座に把握し、過大スパンを避ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0078

5-3 木造・RC構造計画 > 床伏・小屋伏・木造詳細 | 難易度：標準

上階柱が下階柱の真上でない場合の床伏計画として、最も適切な考え方はどれか。

- ア．上階柱は床板だけで支持できるため、梁位置は確認しない。
- イ．上階柱の集中荷重を受ける下階梁の位置・スパン・支持条件を確認し、無理な位置なら平面計画を見直す。
- ウ．上階柱を吹抜け中央に配置しても構造上問題ない。
- エ．柱位置がずれるほど下階梁の負担は小さくなる。

答え・解説

正答：イ

ア：集中荷重を適切な梁・柱へ伝える必要がある。

イ：柱位置がずれると梁に集中荷重が生じるため、平面と床伏を同時に調整する必要がある。

ウ：支持要素のない位置には柱を設けられない。

エ：一般に梁へ追加の集中荷重が作用する。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

総合解説：上下階柱の不一致は完全禁止ではないが、受け梁が必要になる。試験では無理な柱ずれを減らす方が安全である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0079

5-3 木造・RC構造計画 > 床伏・小屋伏・木造詳細 | 難易度：応用

木造の部分詳細図（断面）を作成する際、構造的な連続性の確認として最も適切なものはどれか。

ア．仕上げ材の模様だけを描き、基礎や構造部材は省略する。

イ．平面図と異なる床高さ・壁厚で描く。

ウ．基礎、アンカーボルト、土台、柱、床組、外壁、屋根等の上下関係と接合・防水・断熱の納まりを一貫して示す。

エ．雨水・防湿・断熱の納まりは断面に関係しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：部分詳細では構造と仕上げの納まりを示す必要がある。

イ：他図面と寸法・位置を整合させる必要がある。

ウ：部分詳細図は単一部材だけでなく、複数部位の接合と寸法関係を表す。

エ：外皮詳細では水分・熱・構造の取り合いが重要である。

総合解説：令和8年は部分詳細図（断面）1/20が要求図書である。具体的出題部位は未公表なので、基本的な上下納まりを理解しておく。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0080

5-3 木造・RC構造計画 > 床伏・小屋伏・木造詳細 | 難易度：応用

2026年9月3日時点で公表されている令和8年二級建築士設計製図の要求図書に関する記述として、最も適切なものはどれか。

ア．床伏図・小屋伏図は一切要求されないことが確定している。

イ．軸組図だけが要求され、平面図は不要である。

ウ．具体的な床伏図の梁断面寸法まで既に公式公表されている。

エ．床伏図兼小屋伏図が縮尺1/100で要求されており、平面図と構造部材・開口・屋根架構を整合させる学習が必要である。

答え・解説

正答：エ

ア：公表済み要求図書に床伏図兼小屋伏図が含まれる。

イ：令和8年二級建築士の公表要求図書には複数の平面図が含まれる。

ウ：課題名と要求図書は公表済みだが、当日問題の詳細条件は未公表である。

エ：JAEICが令和8年課題公表時に要求図書として明示している。

総合解説：公表済み情報と未公表情報を区別し、要求図書に必要な技能を重点的に練習する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0081

5-3 木造・RC構造計画 > RCグリッド・構造計画 | 難易度：基礎

RC造の平面計画で、比較的規則的な柱グリッドを採用する利点として最も適切なものはどれか。

- ア．梁スパンと荷重伝達が分かりやすくなり、型枠・配筋・平面計画の整合を取りやすい。
- イ．柱をランダムに配置するほど梁が不要になる。
- ウ．柱グリッドは構造と無関係で、家具配置だけで決める。
- エ．各階で柱位置を全て変えるほど荷重が直接基礎へ流れやすい。

答え・解説

正答：ア

- ア：規則的なグリッドは構造の明快さと施工性、作図のしやすさにつながる。
- イ：柱位置が不規則だと梁・床の荷重伝達が複雑になりやすい。
- ウ：RC架構の基本骨格であり平面計画と一体で決める。
- エ：上下階で柱が不連続だと受け梁・壁等が必要になりやすい。

総合解説：RCのエスキスでは、まず合理的なスパンと柱グリッドを想定し、その中へ室を納める考え方が有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0082

5-3 木造・RC構造計画 > RCグリッド・構造計画 | 難易度：基礎

RC造2階建ての柱配置として、最も適切な考え方はどれか。

- ア．2階柱を1階梁の支間中央へ多数配置する。
- イ．可能な範囲で上下階の柱位置を一致させ、梁・柱を通じて基礎まで荷重を素直に伝える。
- ウ．上下階柱位置は平面図ごとに独立して決める。
- エ．柱がずれても床スラブだけで全ての荷重を受ければよい。

答え・解説

正答：イ

- ア：受け梁に大きな集中荷重が生じ、構造が複雑になる。
- イ：柱が上下で連続すると、鉛直荷重と地震時の力の流れが明快になる。
- ウ：同一建物として架構を連続させる必要がある。
- エ：通常は梁・柱等で適切に荷重を伝達する。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

総合解説：RC造でも上下階不整合を減らすことが合理的な構造計画の基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0083

5-3 木造・RC構造計画＞RCグリッド・構造計画 | 難易度：基礎

RCラーメン構造のグリッド計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．一つのスパンだけ極端に長くし、他を極端に短くするほど構造が単純になる。
- イ．梁スパンは室の大きさと無関係に決める。
- ウ．用途に必要な室寸法を満たしつつ、隣接スパンが極端に不均一にならないよう整理する。
- エ．スパンが長くなるほど梁せいは必ず小さくできる。

答え・解説

正答：ウ

ア：部材断面・剛性の差が大きくなり不合理になりやすい。
イ：柱位置が室利用や開口と干渉するため平面計画と調整する。
ウ：過大・極小スパンが混在すると梁断面や柱配置が不合理になりやすい。
エ：一般に長スパンほど曲げ・たわみへの要求が大きくなる。
総合解説：RCグリッドは室寸法、駐車、廊下、開口と構造合理性の妥協点を探す作業である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0084

5-3 木造・RC構造計画＞RCグリッド・構造計画 | 難易度：標準

RC造で階段や吹抜けによる比較的大きな床開口を設ける場合の構造計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．開口周囲の梁を全て省略し、スラブ端部を自由端のまま長く残す。
- イ．平面図では開口、構造計画では全面床として扱う。
- ウ．開口位置は柱・梁と無関係に任意に決める。
- エ．開口周囲に梁等を配置して床荷重を受け替え、柱・梁グリッドと整合させる。

答え・解説

正答：エ

ア：荷重支持と変形上不合理になりやすい。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。
イ：図面相互の不整合となる。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。
ウ：主要梁・柱との納まりを検討する必要がある。
エ：床開口はスラブの連続性を切るため、周囲で荷重を安全に伝える架構が必要である。
総合解説：RC造でも階段・吹抜けは構造グリッドを決める主要要素である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0085

5-3 木造・RC構造計画＞RCグリッド・構造計画 | 難易度：標準

RC造のバルコニー等を片持ちで計画する際、最も適切な考え方はどれか。

- ア．片持ち長さとは荷重、支持梁・スラブの連続性を確認し、無理に大きな突出を設けない。
- イ．片持ち長さを大きくするほど固定端の曲げは小さくなる。
- ウ．片持ち先端に柱がなくても、突出長さは無制限にできる。
- エ．片持ち部は構造図に表現しなくてよい。

答え・解説

正答：ア

ア：片持ち部は固定端に大きな曲げが生じるため、構造合理性を確認する必要がある。

イ：一般に片持ち長さの増大で固定端モーメントは大きくなる。

ウ：部材強度・たわみ・納まりを検討する必要がある。

エ：床・梁の支持関係として構造計画へ反映する必要がある。

総合解説：製図試験では複雑な片持ちを多用せず、明快な柱梁グリッドを基本とする方が安全である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0086

5-3 木造・RC構造計画＞RCグリッド・構造計画 | 難易度：標準

RC造で耐震壁を設ける場合の配置として、最も適切な考え方はどれか。

- ア．全ての耐震壁を一方の隅へ集中させる。
- イ．平面的な偏りを抑え、上下階でできるだけ連続させ、床から基礎まで水平力を伝達できる配置とする。
- ウ．2階耐震壁の下を1階の無柱大空間として、受け架構を検討しない。
- エ．耐震壁は平面計画と無関係なので、窓・出入口位置を確認せず配置する。

答え・解説

正答：イ

ア：偏心が大きくなりねじれが生じやすい。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

イ：耐震壁の量だけでなく配置・連続性が建物のねじれと荷重伝達に影響する。

ウ：鉛直・水平力の伝達が不連続になる。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

エ：開口と壁性能・室利用を調整する必要がある。

総合解説：RC造の製図ではラーメン架構と耐震壁の組合せを明かにし、平面利用と構造の両立を図る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0087

5-3 木造・RC構造計画＞RCグリッド・構造計画 | 難易度：標準

RC造の建物で、一方向の柱芯寸法が合計12m、等間隔の3スパンとする。1スパンの長さとして正しいものはどれか。

- ア．3m。全長を柱本数4本で割っている。
- イ．6m。スパン数を2と誤っている。
- ウ．4m。12m÷3=4mである。
- エ．12m。全長を1スパンとしている。

答え・解説

正答：ウ

ア：スパン数は柱本数より1少ないため、3スパンで割る。

イ：条件は3スパンである。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

ウ：等スパンのグリッドでは全長をスパン数で割って柱間寸法を求める。

エ：3スパンに分割する必要がある。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

総合解説：RCエスキスでは外形寸法と柱スパンを即座に対応させ、室寸法と構造グリッドを整理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0088

5-3 木造・RC構造計画＞RCグリッド・構造計画 | 難易度：標準

RC造の客室・居室内に柱が突出する場合の計画として、最も適切な考え方はどれか。

- ア．柱を室の中央にランダム配置し、家具配置は考慮しない。
- イ．柱が邪魔なら図面上だけ消し、上下階荷重は考えない。
- ウ．平面計画を優先し、柱グリッドは各階で毎回変更する。
- エ．構造グリッドを保ちながら、柱を壁・収納・室境界に取り込めるか検討し、利用上の支障を減らす。

答え・解説

正答：エ

ア：利用性を大きく損なう。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

イ：構造上必要な柱を無根拠に省略できない。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

ウ：架構の連続性が失われる。このため、設計条件・法規・構造の成立性の観点から適切とはいえない。

エ：柱を完全に消すのではなく、構造と室利用の双方が合理的になる位置を探る。

総合解説：RCグリッドは構造だけの線ではなく、間仕切・収納・廊下と重ねることで平面計画を整えられる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0089

5-3 木造・RC構造計画＞RCグリッド・構造計画 | 難易度：応用

二級建築士設計製図の構造形式に関する学習として、最も適切なものはどれか。

- ア．近年も木造だけでなくRC造課題が出題されているため、木造の床伏だけでなくRCの柱梁グリッド・架構計画も基礎教材として学ぶ。
- イ．二級建築士設計製図は今後も木造しか出題されないことが公式に保証されている。
- ウ．RC造が出題された年はない。
- エ．今年が木造課題なのでRC構造計画の学習は資格ブートキャンプ教材から完全に削除すべきである。

答え・解説

正答：ア

ア：令和6年はRC造のゲストハウス、令和7年は木造シェアハウスであり、構造形式は年度によって変わる。

イ：過去にはRC造課題も複数出題されている。

ウ：令和3年・令和6年などRC造課題がある。

エ：長期的な設計技能として両構造を扱うことに意味がある。

総合解説：科目5は公式の『学科V』ではなく、設計製図の総合対策として木造・RCの双方を扱う内部学習モジュールである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0090

5-3 木造・RC構造計画＞RCグリッド・構造計画 | 難易度：応用

RC造のエスキス確定前に行う総合チェックとして、最も適切なものはどれか。

- ア．柱グリッドだけ整っていれば、要求室が欠落してもよい。
- イ．柱梁グリッド、上下階柱位置、床開口、耐震壁、主要室寸法、廊下・階段、外壁開口が相互に干渉していないか確認する。
- ウ．要求室が全てあれば、柱が上下で不連続でも確認不要である。
- エ．平面図と構造計画は別の建物として考えてよい。

答え・解説

正答：イ

ア：主要要求室と構造条件の両方を満たす必要がある。

イ：RC造ではグリッドを守るだけでも、室計画だけでも不十分で、構造と計画を同時に成立させる必要がある。

ウ：構造に対する理解・架構計画も採点ポイントとなる。

エ：同一建物の要求図書として相互整合が必要である。

総合解説：設計製図の合格水準は『建築物の設計に必要な基本的かつ総括的な知識及び技能』であり、計画・法規・構造・図面表現の統合が求められる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0091

5-4 要求図書・図面表現 > 平面図・配置図 | 難易度：基礎

令和8年二級建築士「設計製図の試験」で要求される「1階平面図兼配置図」の表現として、最も適切なものはどれか。

ア．1階の室・壁・開口・階段等に加え、敷地境界、道路、建物配置、主要な外部動線・外構等を相互に分かるように示す。

イ．1階の室名だけを示し、道路や敷地境界は別紙がない限り省略する。

ウ．敷地外周と北向きだけを示し、1階の間取り・出入口は描かない。

エ．建物外形だけを配置し、道路から玄関までのアプローチや外部空間は一切示さない。

答え・解説

正答：ア

ア：1階平面図兼配置図は、建物内部の1階計画と敷地内での建物配置・外構計画を同一図上で読み取れるようにする図面である。

イ：「兼配置図」であるため、道路・敷地境界・建物位置など配置計画に必要な情報も示す必要がある。

ウ：配置情報だけでは1階平面図として未完成であり、要求図書の表現として不十分である。

エ：配置計画・動線計画も採点対象であり、主要な外構・アプローチを読み取れるようにする必要がある。

総合解説：令和8年の公表要求図書には「1階平面図兼配置図 [1/100] 」が含まれる。平面と配置を別々の計画として扱わず、道路から建物内部まで連続して表現する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0092

5-4 要求図書・図面表現 > 平面図・配置図 | 難易度：基礎

縮尺1/100の平面図で、実寸9.10mの長さを紙面上に表す場合の長さとして正しいものはどれか。

ア．9.1mm。実寸9.10mをそのままmm換算せず100で割っている。

イ．91mm。9,100mm÷100=91mmである。

ウ．455mm。910mmモジュールの半分の寸法と混同している。

エ．910mm。縮尺を考慮せず実寸の10分の1程度としている。

答え・解説

正答：イ

ア：9.10mは9,100mmなので、1/100では91mmとなる。

イ：縮尺1/100では実寸を100で割った長さを紙面上に表す。

ウ：紙面上の長さは実寸9,100mmを100で割る。

エ：1/100図面では91mmで表す。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

総合解説：令和8年の平面図・配置図・床伏図兼小屋伏図・立面図は1/100である。縮尺換算を即答できると寸法チェックが速くなる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0093

5-4 要求図書・図面表現 > 平面図・配置図 | 難易度：基礎

平面図における建具・開口部の表現として、最も適切なものはどれか。

- ア．出入口は壁を途切れさせるだけで、扉の開閉方向は一切示さない。
- イ．全ての窓を同じ記号にし、FIXか開閉窓か区別できなくてもよい。
- ウ．出入口・窓の位置と開閉方向等を、室の利用・動線が読み取れるよう明確に表現する。
- エ．扉が家具や階段と重なっても、線が描かれていれば問題ない。

答え・解説

正答：ウ

ア：扉の開閉と動線の成立性を確認しにくく、要求図書の表現として情報不足になりやすい。

イ：採光・換気や利用上の判断に必要な範囲で開口部の性質を読み取れる表現が望ましい。

ウ：扉の開閉方向は家具・廊下・階段等との干渉確認にも必要であり、単なる壁の切れ目として扱わない。

エ：平面計画として実際に開閉・通行できるかを確認する必要がある。

総合解説：平面図は室の存在だけでなく、実際に使える動線と開口計画を伝える図面である。建具の表現は計画成立性の確認に直結する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0094

5-4 要求図書・図面表現 > 平面図・配置図 | 難易度：標準

木造3階建ての各階平面図を作成する際、最も適切な考え方はどれか。

- ア．1階・2階・3階は独立した図面なので、階段位置が各階で異なってもよい。
- イ．室名が同じなら、柱や外壁の位置は上下階で自由に変えてよい。
- ウ．上階の吹抜け位置が下階平面と一致しなくても、床伏図だけ合えばよい。
- エ．階段、主要な柱・壁、吹抜け、外壁位置など、上下階で物理的につながる要素を相互に照合して描く。

答え・解説

正答：エ

ア：上下階の重大な不整合は公式判定基準で重大な不適合となり得る。

イ：構造・外形・荷重伝達を含めて整合を確認する必要がある。

ウ：平面図同士を含む要求図書全体の整合が必要である。

エ：各階平面図は同一建築物の異なる高さの切断面であり、上下関係が成立している必要がある。

総合解説：令和7年合否判定基準では「図面相互の重大な不整合（上下階の不整合等）」が重大な不適合に明記されている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0095

5-4 要求図書・図面表現 > 平面図・配置図 | 難易度：標準

1階平面図兼配置図で主出入口へのアプローチを表現する際、最も適切なものはどれか。

ア．道路から敷地内へ入り主出入口に至る経路を、門・通路・段差処理・車両動線等との関係が読み取れるように示す。

イ．道路と玄関の間に通行不能な植栽帯があっても、玄関記号だけ描けばよい。

ウ．車両出入口と歩行者動線が交差しても、その位置を図面上で確認しない。

エ．道路側の敷地境界線を省略し、玄関がどこからアクセスされるか分からなくてもよい。

答え・解説

正答：ア

ア：配置図では建物を敷地内に置くだけでなく、実際に利用者が道路から建物へ到達できる計画を表現する。

イ：外部動線が成立していなければ配置計画として不十分である。

ウ：安全な外構・動線計画のため交錯を確認し、必要に応じて分離する。

エ：道路と敷地・出入口の関係は配置図の基本情報である。

総合解説：配置図では道路、敷地、建物、外構、出入口を一続きの計画として表す。採点ポイントの「配置計画」「動線計画」に対応する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0096

5-4 要求図書・図面表現 > 平面図・配置図 | 難易度：標準

設計製図の平面図に家具・設備機器を描く主な意義として、最も適切なものはどれか。

ア．家具を多く描くほど室面積が増えたことになる。

イ．室の広さ、出入口、通路、利用方法が現実的に成立するかを確認し、計画意図を読み取りやすくする。

ウ．家具は構造部材の代わりになるため、必要な柱・壁を省略できる。

エ．家具配置は動線と無関係なので、扉前や通路上に重ねてよい。

答え・解説

正答：イ

ア：家具は室面積を増加させるものではなく、利用可能性を確認するために用いる。

イ：家具・設備を配置すると、面積だけでは分からない有効寸法や動線の問題を発見しやすい。

ウ：家具と構造部材は役割が異なり、構造計画は別途成立させる必要がある。

エ：家具配置後も通行・扉開閉が成立するか確認する必要がある。

総合解説：採点ポイントには各室の計画や動線計画が含まれる。家具・設備は室の実用性を示す補助情報として有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0097

5-4 要求図書・図面表現 > 平面図・配置図 | 難易度：標準

配置図に北方向を示す主な理由として、最も適切なものはどれか。

- ア．北矢印を描けば建蔽率・容積率の計算が不要になるため。
- イ．北向きの外壁だけを建物外周として扱うため。
- ウ．敷地・建物・道路の方位関係を明確にし、採光・日照・立面方向等の読み取りを可能にするため。
- エ．方位は答案用紙の上方向と必ず一致するため、実際の敷地方位は無視してよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：方位記号と面積・法規計算は別の事項である。
イ：建物は全方位の外壁・敷地条件を考える必要がある。
ウ：方位は室配置や開口計画、立面指定の理解に関する基本情報である。
エ：問題用紙・答案用紙で示された方位条件を正しく反映する必要がある。
総合解説：方位記号は単なる記号ではなく、環境計画・配置・立面との関係を読み取る基準となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0098

5-4 要求図書・図面表現 > 平面図・配置図 | 難易度：標準

敷地境界から建物外壁までの離隔を配置図で管理する方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．建物が敷地内に見えれば、境界からの寸法は一切確認しない。
- イ．建物外形を答案用紙の方眼に合わせれば、敷地境界との関係は自動的に適合する。
- ウ．離隔寸法は平面図の室内寸法と同じなので、外部側には示さなくてよい。
- エ．主要な離隔寸法を明示し、道路後退・採光・外構利用・施工可能性等の条件と照合する。

答え・解説

正答：エ

ア：法規・採光・外構条件に関係するため実寸確認が必要である。
イ：敷地形状・道路条件に応じて配置寸法を検討する必要がある。
ウ：配置計画を明確にするため主要な外部寸法を示すことが有効である。
エ：建物位置は図の見た目だけでなく、境界からの実寸で確認する必要がある。
総合解説：配置図の寸法は建物位置を確定する根拠となる。特に道路側・隣地側の主要離隔は法規チェックと連動する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0099

5-4 要求図書・図面表現 > 平面図・配置図 | 難易度：応用

木造平面図の壁・柱表現として、最も適切な考え方はどれか。

ア．構造上主要な柱・壁の位置を床伏図等と整合させ、室寸法・開口・階段との関係が読み取れるようにする。

イ．平面図では室名だけ分かればよく、柱・壁の位置は床伏図と異なってもよい。

ウ．柱が家具と干渉する場合は、床伏図上だけ柱を消して平面図には残す。

エ．耐力壁の位置は開口部と重なっても線を重ねて描けば成立する。

答え・解説

正答：ア

ア：平面図の壁・柱は意匠線だけでなく、構造計画と対応している必要がある。

イ：図面相互の不整合となり、構造の理解も示せない。

ウ：同一建物の要求図書として一致させる必要がある。

エ：壁と開口は物理的に両立する配置へ調整する必要がある。

総合解説：平面図と床伏図を別工程にせず、柱・壁・開口の対応を確定してから清書すると不整合を減らせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0100

5-4 要求図書・図面表現 > 平面図・配置図 | 難易度：応用

令和8年二級建築士「設計製図の試験」の各階平面図について、2026年9月3日時点の公式公表内容として最も適切なものはどれか。

ア．3階建てであっても、1階平面図だけが要求されることが公式に確定している。

イ．1階平面図兼配置図と各階平面図が1/100で要求されており、各階平面図の具体的な指定は試験問題中の設計条件等で示される。

ウ．各階平面図の縮尺は1/20である。

エ．令和8年の具体的な各階の全設計条件は既に公式公開済みである。

答え・解説

正答：イ

ア：公表要求図書には「各階平面図」が含まれる。

イ：JAEICの課題公表では各階平面図を要求図書に掲げ、注記で具体的な指定は試験問題中に示としている。

ウ：公表縮尺は1/100で、1/20は部分詳細図（断面）である。

エ：課題名・要求図書等は公表済みだが、当日問題の詳細条件は未公表である。

総合解説：今年度情報を扱う際は、公式公表済みの要求図書と未公表の当日条件を混同しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0101

5-4 要求図書・図面表現 > 立面図・断面・部分詳細図 | 難易度：基礎

立面図の作成として、最も適切なものはどれか。

- ア．平面図にない窓を外観の見栄えだけで自由に追加する。
- イ．屋根形状は小屋伏図と無関係なので、立面図だけ別の形状にする。
- ウ．平面図の外壁・窓・出入口位置、屋根形状、各階高さ等と照合し、同一建物の外観として整合させる。
- エ．階高は平面図と関係ないので、各階を任意の高さで描く。

答え・解説

正答：ウ

ア：図面相互の不整合となるため、平面計画へ反映して整合させる必要がある。

イ：屋根外形と小屋組は同一建物として対応させる必要がある。

ウ：立面図は平面計画を外部から見た表現であり、開口位置や屋根形状が平面・小屋伏と一致する必要がある。

エ：床レベル・階高・開口高さを断面的に整合させる必要がある。

総合解説：要求図書の表現では、一枚ごとの美しさより相互整合が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0102

5-4 要求図書・図面表現 > 立面図・断面・部分詳細図 | 難易度：基礎

縮尺1/100の立面図で、地盤面から軒先までの実高さ7.20mを紙面上に表す長さとして正しいものはどれか。

- ア．7.2mm。mをmmへ正しく換算せずに100で割っている。
- イ．144mm。1/50の縮尺で計算した値である。
- ウ．720mm。縮尺を10分の1として扱っている。
- エ．72mm。7,200mm÷100=72mmである。

答え・解説

正答：エ

ア：7.20mは7,200mmであり、紙面上は72mmとなる。

イ：条件は1/100である。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

ウ：1/100では72mmとなる。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

エ：1/100では実寸を100で割って紙面寸法を求める。

総合解説：令和8年の立面図は1/100である。床レベル・軒高等の実寸と図面上寸法を対応させる技能が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0103

5-4 要求図書・図面表現 > 立面図・断面・部分詳細図 | 難易度：基礎

縮尺1/20の部分詳細図（断面）で、実寸400mmの高さを紙面上に表す長さとして正しいものはどれか。

- ア．20mm。400mm ÷ 20 = 20mmである。
- イ．4mm。1/100として計算した値である。
- ウ．8mm。1/50として計算した値である。
- エ．80mm。実寸を5分の1としている。

答え・解説

正答：ア

ア：部分詳細図は1/20なので、1/100図より5倍大きく詳細を表現する。

イ：部分詳細図は1/20なので20mmとなる。

ウ：指定縮尺1/20を用いる必要がある。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

エ：400mm ÷ 20 = 20mmである。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

総合解説：令和8年は部分詳細図（断面）1/20が要求される。縮尺が異なる図面を同じ方眼感覚で描かないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0104

5-4 要求図書・図面表現 > 立面図・断面・部分詳細図 | 難易度：標準

木造の部分詳細図（断面）に示す情報として、最も適切な考え方はどれか。

- ア．外壁の色だけを大きく描き、構造部材や層構成は省略する。
- イ．基礎・土台・柱・床・外壁・屋根等の構成と、必要な防水・防湿・断熱・仕上げの連続関係が読み取れるようにする。
- ウ．平面図と異なる壁厚・床高さで描いても、詳細図は別図なので問題ない。
- エ．断熱・防湿・雨仕舞は設備事項なので、建築詳細には一切関係しない。

答え・解説

正答：イ

ア：部分詳細図では構造・仕上げ・防水等の納まりを示す必要がある。

イ：部分詳細図は拡大断面により、平面図だけでは分からない構造・外皮の納まりを示す図面である。

ウ：同一建物として寸法・構成を整合させる必要がある。

エ：外皮性能・耐久性に関わるため断面的な納まりの理解が必要である。

総合解説：令和7年までは矩計に関する知識が採点ポイントに含まれ、令和8年も部分詳細図（断面）が要求されている。納まりの基礎理解が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0105

5-4 要求図書・図面表現 > 立面図・断面・部分詳細図 | 難易度：標準

立面図・部分詳細図の高さ関係を整合させる方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．立面図と詳細図で階高が異なっても、縮尺が違うので問題ない。
- イ．平面図に高さを書かないので、階高は図面ごとに自由に決められる。
- ウ．地盤面、1階床、各階床、軒・最高高さ等の主要レベルを同じ計画値で管理し、図面間で照合する。
- エ．軒高は屋根勾配と無関係なので、詳細図では確認しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：縮尺が違っても実寸値は同一である必要がある。
イ：建物断面として一貫した高さ計画が必要である。
ウ：高さ寸法を各図面で別々に決めると、階高や屋根勾配が一致しなくなる。
エ：屋根形状・階高・軒高は相互に関係する。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。
総合解説：高さの基準値をエスキス段階で固定し、立面・部分詳細・屋根計画で共通使用すると不整合を減らせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0106

5-4 要求図書・図面表現 > 立面図・断面・部分詳細図 | 難易度：標準

切妻屋根を計画した答案で、立面図と小屋伏図を整合させる方法として最も適切なものはどれか。

- ア．立面図では切妻、小屋伏図では片流れとしても、屋根なので同じとみなす。
- イ．棟方向が90度違ってても、屋根面積が同じなら問題ない。
- ウ．軒の出は立面図だけで決め、小屋伏図や部分詳細には反映しない。
- エ．棟の方向、屋根勾配、軒の出、妻側・平側の関係を両図面で一致させる。

答え・解説

正答：エ

ア：屋根形状が異なり重大な図面不整合となる。
イ：外観・架構・排水方向が変わるため整合しない。
ウ：部材配置・外壁納まりと一貫させる必要がある。
エ：立面図の屋根外形は小屋伏図の棟・母屋等の架構と対応している必要がある。
総合解説：屋根は立面・小屋伏・詳細の3図面をまたぐため、最終チェックで棟方向と軒先位置を照合する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0107

5-4 要求図書・図面表現 > 立面図・断面・部分詳細図 | 難易度：標準

平面図と立面図の窓を照合する際の確認として、最も適切なものはどれか。

ア．窓の位置・幅・個数を平面図と一致させ、立面では腰高・上端高さ等も建物用途に合うように表現する。

イ．立面図の窓は外観デザイン用なので、平面図にない位置へ自由に描く。

ウ．平面図の窓数より立面図の窓数が多くても採光が増えるので適切である。

エ．窓の高さは床レベルと無関係に各立面で決める。

答え・解説

正答：ア

ア：平面と立面の開口位置が違うと、外壁・室内計画の両方で不整合となる。

イ：同じ窓を異なる方向から表現しているため位置を一致させる必要がある。

ウ：図面相互の不整合となる。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

エ：床・天井・家具等との関係を確認して高さを計画する。

総合解説：窓は平面・立面・詳細・採光換気チェックにまたがる要素である。位置・大きさを一元管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0108

5-4 要求図書・図面表現 > 立面図・断面・部分詳細図 | 難易度：標準

木造部分詳細図で基礎から柱へ至る部分を表現する際、構造上最も重要な考え方はどれか。

ア．土台を基礎から浮かせ、固定要素を描かない。

イ．基礎・アンカーボルト等・土台・柱が連続して荷重と引抜き力を伝えられる納まりを示す。

ウ．柱を床仕上げだけで支持し、土台・基礎との関係を省略する。

エ．アンカーボルト等は仕上げ材なので、構造詳細には不要である。

答え・解説

正答：イ

ア：基礎と上部構造を適切に緊結する必要がある。

イ：木造の下部詳細では、鉛直荷重だけでなく地震時の柱脚引抜き力も基礎へ伝える経路を理解する必要がある。

ウ：構造荷重を基礎へ伝える納まりが必要である。

エ：基礎と土台を緊結する重要な構造要素である。

総合解説：部分詳細図では部材名を暗記するだけでなく、力・水・熱がどのように連続するかを読み取れることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0109

5-4 要求図書・図面表現 > 立面図・断面・部分詳細図 | 難易度：応用

外壁と屋根が取り合う部分の詳細を考える際、最も適切な考え方はどれか。

- ア．上側の防水層を下側の防水層の裏へ差し込み、雨水を壁内へ導く。
- イ．防水層同士が途中で切れていても、仕上げ材が見えていれば問題ない。
- ウ．屋根防水層・下葺き・外壁防水層等が雨水を外部へ排出できるよう、重なり方向と連続性を確保する。
- エ．軒先・水切り等の排水方向は立面の見た目だけで決める。

答え・解説

正答：ウ

ア：水の流れに逆らう重ねは漏水の原因となる。

イ：外皮の連続した防水経路を確保する必要がある。

ウ：雨仕舞は水が上から下へ流れることを前提に、内部へ逆流しにくい層構成とする。

エ：雨水が確実に外部へ排出される納まりを断面的に確認する。

総合解説：部分詳細では構造だけでなく、雨仕舞・通気・断熱・防湿の連続性を示すことが建築的な理解につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0110

5-4 要求図書・図面表現 > 立面図・断面・部分詳細図 | 難易度：応用

令和8年二級建築士「設計製図の試験」の公表要求図書について、最も適切な記述はどれか。

- ア．全体断面図1/100だけが要求され、立面図は不要である。
- イ．部分詳細図（断面）の縮尺は1/100である。
- ウ．部分詳細図の具体的な詳細部位まで既に公式公表されている。
- エ．立面図1/100と部分詳細図（断面）1/20が公表されており、独立した全体断面図は公表要求図書としては明記されていない。

答え・解説

正答：エ

ア：公表要求図書には立面図1/100が含まれる。

イ：公表縮尺は1/20である。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

ウ：課題公表時点では要求図書の種類は示されているが、当日問題の詳細条件は未公表である。

エ：JAEICの令和8年課題公表では「立面図」「部分詳細図（断面）」が示されている。

総合解説：教材上の細分類名に「断面」を含めても、今年度の公式要求図書名は「部分詳細図（断面）」であることを正確に区別する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0111

5-4 要求図書・図面表現 > 主要寸法・記号・面積表 | 難易度：基礎

令和8年の1/100図面用答案方眼は1目盛4.55mmと公表されている。実寸910mmは方眼何目盛に相当するか。

- ア．2目盛。1/100では910mmが紙面9.10mmとなり、 $9.10 \div 4.55 = 2$ である。
- イ．1目盛。1目盛は実寸455mmに相当する。
- ウ．4目盛。4目盛では紙面18.2mm、実寸1,820mmに相当する。
- エ．20目盛。縮尺を考慮せず計算している。

答え・解説

正答：ア

ア：令和8年の公表方眼を使うと、455mmが1目盛、910mmが2目盛に対応する。

イ：910mmはその2倍なので2目盛である。

ウ：910mmとは異なる。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

エ：1/100図上では910mmは9.1mmである。

総合解説：方眼寸法とモジュールの関係を把握すると、木造の柱間・室寸法を速く正確に描ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0112

5-4 要求図書・図面表現 > 主要寸法・記号・面積表 | 難易度：基礎

令和8年の部分詳細図（断面）用答案方眼は1目盛10mmで、縮尺1/20である。1目盛が表す実寸として正しいものはどれか。

- ア．20mm。縮尺倍率を掛けずに扱っている。
- イ．200mm。紙面10mm×20=実寸200mmである。
- ウ．100mm。1/10として計算している。
- エ．1,000mm。1/100として扱っている。

答え・解説

正答：イ

ア：紙面10mmは実寸200mmとなる。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

イ：1/20図では紙面1mmが実寸20mmに相当する。

ウ：指定縮尺は1/20である。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

エ：部分詳細図は1/20である。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

総合解説：1/100図の4.55mm方眼と、1/20詳細図の10mm方眼は意味が異なるため、作図時に混同しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0113

5-4 要求図書・図面表現 > 主要寸法・記号・面積表 | 難易度：基礎

平面図・配置図の寸法記入として、最も適切な考え方はどれか。

ア．建物全体寸法だけを書き、室や通り芯の位置は読み手の推測に任せる。

イ．同じ寸法を図面中に無秩序に何十回も記入する。

ウ．敷地・建物全体寸法、主要な通り芯・室寸法、境界から建物までの位置寸法等を、計画を再現できるよう系統的に示す。

エ．寸法線と建物線を重ね、数値の対応先が分からないようにする。

答え・解説

正答：ウ

ア：主要部分の位置・寸法を確認できず、計画表現として不足する。

イ：情報が混乱し、重要寸法を読み取りにくくなる。

ウ：寸法は線を多く描くことが目的ではなく、建物位置と主要空間寸法を第三者が読み取れる体系にすることが重要である。

エ：寸法の対象が明確に読み取れる表現が必要である。

総合解説：寸法は外側から敷地・建物全体、通り・主要室など階層化して整理すると読みやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0114

5-4 要求図書・図面表現 > 主要寸法・記号・面積表 | 難易度：標準

各階平面図の階段表現として、最も適切なものはどれか。

ア．階段室に「階段」と文字だけ書き、向きや段割りは示さない。

イ．1階と2階で上り方向を矛盾させても、階段名が同じならよい。

ウ．階段記号が家具と重なって読めなくても、寸法があれば問題ない。

エ．階段の位置・幅・段割りと上り方向等を読み取れるように示し、上下階で同じ階段として整合させる。

答え・解説

正答：エ

ア：上下階の接続や実際の昇降計画を確認しにくい。

イ：物理的な接続関係を一致させる必要がある。

ウ：要求図書は明確に読み取れる表現とする必要がある。

エ：階段の上り下り方向は各階の接続関係を確認する重要な記号情報である。

総合解説：階段は重大な不整合を起こしやすいため、記号・段数・開口・上下位置をセットで確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0115

5-4 要求図書・図面表現 > 主要寸法・記号・面積表 | 難易度：標準

設計製図の面積表作成として、最も適切な方法はどれか。

ア．平面図の実際の外形・算定条件から各階床面積等を計算し、図面と面積表の数値を相互確認する。

イ．問題文の面積上限をそのまま答案の延べ面積として記入する。

ウ．図面実測が上限を超えていても、面積表だけ上限値へ書き換える。

エ．各階床面積を計算せず、延べ面積だけ感覚で記入する。

答え・解説

正答：ア

ア：面積表は計画面積を宣言するだけでなく、平面図と一致する計算結果を示す必要がある。

イ：実際に描いた建物の面積を計算する必要がある。

ウ：図面と面積表の不整合となり、条件違反も解消しない。

エ：計算根拠をもって各階と合計を確認する必要がある。

総合解説：令和8年は面積表が要求図書に含まれる。面積違反は過去の重大な不適合としても明示されている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0116

5-4 要求図書・図面表現 > 主要寸法・記号・面積表 | 難易度：標準

面積表で、1階 58.20m^2 、2階 54.60m^2 、3階 45.50m^2 と算定された。これらを単純合計した延べ面積として正しいものはどれか。

ア． 112.80m^2 。1階と2階だけを合計している。

イ． 158.30m^2 。 $58.20+54.60+45.50=158.30\text{m}^2$ である。

ウ． 103.70m^2 。1階と3階だけを合計している。

エ． 168.30m^2 。合計時に 10m^2 を余分に加えている。

答え・解説

正答：イ

ア：3階 45.50m^2 も加える必要がある。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

イ：設問条件では各階床面積を単純合計する。この点が設計条件・要求図書を正確に表現するうえで適切である。

ウ：2階 54.60m^2 も含める。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

エ：正しい合計は 158.30m^2 である。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

総合解説：面積表は簡単な加算でもミスが致命傷になり得る。計算後に別順序で再計算するなど独立チェックを行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0117

5-4 要求図書・図面表現 > 主要寸法・記号・面積表 | 難易度：標準

平面図で寸法線に「3,640」と記入しているのに、1/100方眼上では実寸2,730mm相当しか描かれていない。最も適切な対応はどれか。

- ア．寸法数値が書いてあれば図形の大きさは無関係なので放置する。
- イ．面積表だけ3,640mm基準にし、平面図は2,730mmのままとする。
- ウ．寸法数値と作図形状のどちらが計画値かを確認し、平面・床伏・面積表を含めて正しい寸法へ統一する。
- エ．床伏図ではさらに別の寸法にして平均を取る。

答え・解説

正答：ウ

ア：図面形状と寸法は一致させる必要がある。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

イ：要求図書間の不整合が拡大する。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

ウ：数値と図形が食い違う場合、読み手が正しい計画を判断できず他図面の不整合にもつながる。

エ：同じ建物寸法を全図面で統一する必要がある。

総合解説：寸法記入後は方眼目数と数値を照合する。数値だけ・線だけを信用せず二重チェックする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0118

5-4 要求図書・図面表現 > 主要寸法・記号・面積表 | 難易度：標準

課題指定の延べ面積範囲には収まっているが、法定容積率を超えている答案について、最も適切な評価はどれか。

- ア．課題指定面積に入っていれば法定容積率は確認しなくてよい。
- イ．面積表に容積率適合と文字で書けば、実際の面積超過は解消される。
- ウ．容積率は配置図だけの表現項目で、面積表とは関係しない。
- エ．課題の面積条件とは別に法令適合も必要なので、容積率違反を解消するよう計画を修正する必要がある。

答え・解説

正答：エ

ア：法令適合は独立した必須条件である。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

イ：実際の計画面積を法定上限以下へ修正する必要がある。

ウ：容積率算定上の延べ面積と敷地面積から確認する。

エ：試験では設計と条件と建築基準法等の双方へ適合することが求められる。

総合解説：『課題面積条件』『建蔽率』『容積率』は別々のチェック項目である。同じ面積データを使っても判定基準は異なる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0119

5-4 要求図書・図面表現 > 主要寸法・記号・面積表 | 難易度：応用

平面図・床伏図等で記号を使用する際の考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．同じ部材・方向・切断位置を示す記号は図面間で一貫して使用し、必要な名称・注記と対応させる。

イ．同じ矢印記号を階段上り方向と北方向の両方に無説明で使う。

ウ．床伏図で使った記号を平面図では逆の意味にする。

エ．必要な記号を全て省略し、読み手が推測することを前提とする。

答え・解説

正答：ア

ア：記号の意味が図面ごとに変わると、読み手が同一部位を追跡できなくなる。

イ：意味が曖昧になり、誤読を招く。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

ウ：図面全体で一貫した表現が必要である。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

エ：要求図書は設計内容を明確に伝える必要がある。

総合解説：記号・寸法・名称は作図速度を上げる道具だが、意味が明確で一貫していることが前提である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0120

5-4 要求図書・図面表現 > 主要寸法・記号・面積表 | 難易度：応用

2026年9月3日時点の令和8年二級建築士設計製図について、面積表の扱いを正しく説明しているものはどれか。

ア．令和8年は面積表が要求されないことが公式に決まっている。

イ．面積表は公表済みの要求図書に含まれており、当日示される設計条件と実際に描いた図面に基づいて作成する必要がある。

ウ．具体的な延べ面積の上限・下限まで課題公表時に公式発表されている。

エ．面積表は過去年度だけの要求で、今年は立面図へ面積を記入する。

答え・解説

正答：イ

ア：公表要求図書に面積表が含まれる。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

イ：課題公表時点で面積表が要求図書として明記されているが、具体的な面積条件は当日問題で確認する必要がある。

ウ：2026年9月3日時点で当日問題の具体的な面積条件は未公表である。

エ：今年度の公表要求図書として面積表が示されている。

総合解説：今年度の具体的な面積条件を予想値で固定せず、面積表を正確に作れる計算技能を準備する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0121

5-5 総合整合・時間管理 > 計画・構造・設備の整合 | 難易度：基礎

木造3階建てで各階に水回りを設ける場合の総合計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．設備配管を優先し、主要梁や耐力壁を現場で自由に切断する前提で計画する。
- イ．各階の水回りを最も遠い位置へ分散させるほど、設備計画が単純になる。
- ウ．可能な範囲で水回りを上下近接させ、給排水立て管・横引き勾配・梁や耐力壁との干渉を確認して配置する。
- エ．平面図に水回りの室名があれば、排水経路や設備位置は一切考えなくてよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：構造性能を損なうため、設計段階で配管経路と構造を調整する必要がある。

イ：立て管・横引きが増え、構造との干渉や維持管理が複雑になりやすい。

ウ：水回りをまとめると配管経路を短くしやすいが、構造部材を無理に欠損させないことまで含めて整合を取る必要がある。

エ：設計製図でも設備計画は計画一般の採点ポイントに含まれる。

総合解説：計画・構造・設備の整合では、室配置から配管・梁まで一つの建物として考える。水回りの上下近接は有効な基本戦略である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0122

5-5 総合整合・時間管理 > 計画・構造・設備の整合 | 難易度：基礎

階段と吹抜けを含む木造計画で、計画・構造の整合として最も適切なものはどれか。

- ア．平面図では吹抜け、床伏図では通常床を全面に設ける。
- イ．床伏図の梁を優先し、階段が梁を貫通してもそのままにする。
- ウ．階段開口周囲の床梁を全て省略しても、床板だけで支持できる。
- エ．平面図の床開口範囲を床伏図へ同じ位置・大きさで反映し、開口周囲の梁で床荷重を受ける。

答え・解説

正答：エ

ア：図面不整合となり、実際の建物としても両立しない。

イ：階段開口と梁位置を調整する必要がある。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

ウ：開口周囲の荷重伝達を成立させる架構が必要である。

エ：階段・吹抜けは床を欠く部分なので、平面計画と床構造を同時に成立させる必要がある。

総合解説：床開口は計画と構造の代表的な取り合いであり、作図前のエスキス段階で位置を確定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0123

5-5 総合整合・時間管理 > 計画・構造・設備の整合 | 難易度：基礎

店舗等の大きな外壁開口を設ける木造併用住宅で、最も適切な総合計画はどれか。

ア．必要な開口を確保しつつ、残る壁で耐力壁をバランスよく配置し、換気口・設備貫通等も耐力要素と干渉しないよう調整する。

イ．店舗開口を決めた後、耐力壁が不足しても設備機器で水平力を負担する。

ウ．耐力壁内へ大きな設備開口を無計画に設けても、壁線が描かれていれば性能は変わらない。

エ．構造壁を優先して店舗入口を完全に塞ぎ、用途条件は無視する。

答え・解説

正答：ア

ア：外壁は意匠・構造・設備の全てが重なるため、開口位置を一部門だけで決めないことが重要である。

イ：設備機器は耐力壁の代替にはならない。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

ウ：開口は耐力壁性能へ影響するため構造条件を確認する必要がある。

エ：用途計画と構造計画の双方を成立させる必要がある。

総合解説：併用住宅では道路側開口が大きくなりやすい。耐力壁・建具・設備開口を一枚の外壁として総合調整する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0124

5-5 総合整合・時間管理 > 計画・構造・設備の整合 | 難易度：標準

上階便所から排水立て管へ至る横引き排水管を計画する場合、最も適切な考え方はどれか。

ア．排水管は逆勾配でもポンプなしで必ず流れるので、梁下高さは考えない。

イ．必要な排水勾配と天井内スペースを確保し、主要梁を不適切に貫通しない経路を平面・構造計画と調整する。

ウ．梁と干渉した場合は、構造確認なしに梁中央を大きく欠き取る。

エ．排水経路は完成後に決められるため、エスキスでは水回り位置だけ決めればよい。

答え・解説

正答：イ

ア：自然流下式排水では所定の勾配が必要である。

イ：排水管は自然流下の勾配が必要なため、梁成や天井高さとの関係を早期に確認する。

ウ：主要構造部材の無断欠損は避け、設備経路を調整する。

エ：設備成立性を考慮しない配置は後工程で大きな手戻りとなる。

総合解説：設備図を要求されない課題でも、設備が実際に納まる平面・断面計画であることが「設備計画」の理解につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0125

5-5 総合整合・時間管理 > 計画・構造・設備の整合 | 難易度：標準

屋根の雨水排水計画として、最も適切なものはどれか。

ア．谷部へ集めた雨水を出入口前へ直接落とす。

イ．縦樋を窓中央へ配置し、開口と干渉しても立面図では無視する。

ウ．屋根勾配と樋・縦樋位置を整合させ、出入口や主要窓、隣地への雨水落下、外構排水を考慮して配置する。

エ．屋根水は隣地へ自然に流せばよく、敷地内排水は考慮しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：通行安全・雨仕舞上不適切であり排水経路を調整する。

イ：開口部・立面と設備位置を整合させる必要がある。

ウ：屋根形状は構造だけでなく、雨水の流れと立面・外構計画へ影響する。

エ：敷地・周辺へ支障を与えない排水計画が必要である。

総合解説：屋根・立面・配置・設備の整合は、雨水の流れを追うと確認しやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0126

5-5 総合整合・時間管理 > 計画・構造・設備の整合 | 難易度：標準

住宅・店舗等の空調・換気設備を建築計画へ反映する際、最も適切な考え方はどれか。

ア．室外機は主玄関の通行幅を塞ぐ位置へ置くのが標準である。

イ．排気口を隣の居室窓の直近に向けても、設備性能には関係ない。

ウ．設備機器は平面計画に一切影響しないので設置スペースを考えない。

エ．室用途に必要な給排気・空調を想定し、室外機・換気口等を主要動線や開口、近隣への騒音・排気と干渉しにくい位置へ計画する。

答え・解説

正答：エ

ア：歩行動線を確保し、維持管理できる位置を検討する。

イ：臭気・熱・騒音等が他の開口へ影響しないよう調整する。

ウ：機器スペース・配管・メンテナンス動線を考慮する必要がある。

エ：設備位置は後付けではなく、利用性・外観・維持管理と調整しておくことが望ましい。

総合解説：採点ポイントの設備計画は、複雑な設備計算よりも、建築計画の中で合理的に設備を成立させる視点が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0127

5-5 総合整合・時間管理 > 計画・構造・設備の整合 | 難易度：標準

設備機器や配管の維持管理を考慮した計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．点検・交換が必要な機器へ到達できる経路と作業スペースを確保し、主要な居住動線を過度に妨げない配置とする。
- イ．点検口の前を固定家具で完全に塞ぐ。
- ウ．給湯機を人が到達できない密閉空間に設置する。
- エ．設備更新時は壁・構造を全て壊す前提とし、計画段階では考えない。

答え・解説

正答：ア

ア：建物は完成時だけでなく、使用中の保守・更新が可能である必要がある。

イ：点検・修繕ができなくなる。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

ウ：安全・点検・交換のため必要なアクセスを確保する。

エ：合理的な維持管理性も建築計画の品質に含まれる。

総合解説：設備計画を室配置と同時に考えることで、完成後の保守性が高まり、無理な設備経路も減らせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0128

5-5 総合整合・時間管理 > 計画・構造・設備の整合 | 難易度：標準

RC造の練習課題で設備配管用スリーブを計画する際、最も適切な考え方はどれか。

- ア．配管経路を最優先し、柱中央に大径スリーブを自由に設ける。
- イ．柱・梁・耐震壁の位置を確認し、構造上不適切な位置への大開口を避け、設備経路とグリッドを事前調整する。
- ウ．梁貫通位置はどこでも同じなので、梁端・中央の違いを考えない。
- エ．RC造では設備を全て露出すれば、構造との整合は一切不要となる。

答え・解説

正答：イ

ア：主要構造部材の性能を損なうため構造的検討が必要である。

イ：RC造は硬化後の変更が難しいため、設備貫通と構造の取り合いを施工前に確定する必要がある。

ウ：応力状態や補強条件が異なるため適切な位置を選定する必要がある。

エ：機器・配管の支持や室利用を含めて総合調整が必要である。

総合解説：科目5は今年度木造課題への直接対策だけでなく、過去に出題されるRC造にも対応する総合設計技能を扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0129

5-5 総合整合・時間管理 > 計画・構造・設備の整合 | 難易度：応用

併用住宅で住宅部分と非住宅部分の境界を計画する際、最も適切な考え方はどれか。

ア．間仕切壁一本を描けば、防火・設備・動線条件は自動的に全て満たされる。

イ．店舗の排気を住宅寝室へ直接導く。

ウ．利用者動線、必要な防火上の区画、換気・給排水等の設備系統、騒音・臭気を総合して境界位置と開口を決める。

エ．住宅の私的動線を店舗来客の主要通路と完全共用することを必須とする。

答え・解説

正答：ウ

ア：用途・規模・設備条件に応じて個別に確認する必要がある。

イ：臭気・騒音等の影響を避ける設備計画が必要である。

ウ：用途境界は単なる間仕切壁ではなく、計画・法規・設備が重なる部分である。

エ：用途ごとのプライバシー・運用を考慮して適切に分ける。

総合解説：令和8年課題は併用住宅であるため、詳細用途が当日示されたら、用途境界を総合チェックすることが重要になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0130

5-5 総合整合・時間管理 > 計画・構造・設備の整合 | 難易度：応用

エスキス終盤で階段位置を大きく変更した場合の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．1階平面図の階段記号だけ移動し、2階・床伏は変更しない。

イ．階段位置を変えても面積・避難・梁配置には影響しない。

ウ．変更後の案は問題文と照合せず、そのまま清書する。

エ．上下階平面、床伏の開口・梁、避難動線、周辺室面積、必要に応じ設備経路まで関連項目を再確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：上下階・構造の重大な不整合となる。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

イ：周辺計画へ大きく影響するため再チェックが必要である。

ウ：設計条件への適合も再確認する必要がある。

エ：一つの変更が複数図面・分野に波及するため、修正箇所だけ直して終わらないことが重要である。

総合解説：終盤の大変更ほど連鎖ミスを起こしやすい。変更項目ごとに「どの図面・条件へ影響するか」を追跡する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0131

5-5 総合整合・時間管理 > 図面相互の整合・最終チェック | 難易度：基礎

試験終了前の最終チェックで最も優先すべき考え方はどれか。

- ア．未完成、主要室欠落、面積違反、設計条件違反、上下階等の重大な図面不整合を先に確認する。
- イ．植栽記号の形を整えることだけを最優先し、要求図書の完成は確認しない。
- ウ．全ての文字を二度書きして濃くすることから始める。
- エ．一枚の図面だけ確認し、他図面との整合は確認しない。

答え・解説

正答：ア

ア：公式可否判定基準でランクIVに直結する事項から確認することが、限られた時間では合理的である。

イ：見栄えより重大な不適合の有無を優先すべきである。

ウ：時間を消費する前に致命的な条件違反を確認する必要がある。

エ：図面相互の重大な不整合もランクIV要因である。

総合解説：令和7年はランクIVが25.1%で、未完成・面積違反・主要室欠落・条件違反が多かったと公表されている。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0132

5-5 総合整合・時間管理 > 図面相互の整合・最終チェック | 難易度：基礎

階段の最終クロスチェックとして、最も適切な組合せはどれか。

- ア．1階平面図の階段名だけ確認すれば十分である。
- イ．各階平面図の位置・上り方向、床伏図の開口、必要な立面・詳細の高さ関係を照合する。
- ウ．床伏図に階段開口がなくても、平面図に階段があれば問題ない。
- エ．階段の上り方向は図面ごとに逆でも、段数が同じならよい。

答え・解説

正答：イ

ア：上階・床伏との位置・向きの整合が必要である。

イ：階段は複数図面に現れ、上下接続・床開口・階高が連動するため横断的に確認する。

ウ：床が存在すると階段が通らないため物理的に不整合となる。

エ：同一階段として接続する向きに整合させる必要がある。

総合解説：最終確認は要素別に図面を横断する方法が有効である。「階段だけ全図面」「窓だけ全図面」のように追跡する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0133

5-5 総合整合・時間管理 > 図面相互の整合・最終チェック | 難易度：基礎

開口部の最終チェックとして、最も適切なものはどれか。

ア．立面図の窓が平面図より多くても外観が良ければそのままにする。

イ．平面図の窓だけ数え、立面図との対応は確認しない。

ウ．各外壁ごとに平面図の窓・出入口の数と位置を立面図と照合し、必要な採光・換気・防火条件も確認する。

エ．採光条件が不足していても、立面図の窓を増やすだけで平面図は修正しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：図面相互の不整合となる。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

イ：同じ開口部を複数図面で一致させる必要がある。

ウ：開口は図面整合と法規チェックの両方に関係するため、方位ごとに追うと確認しやすい。

エ：平面・立面・法規の全てを一致させて修正する。

総合解説：外壁面ごとに開口を追跡すると、立面との不整合や採光窓の描き忘れを発見しやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0134

5-5 総合整合・時間管理 > 図面相互の整合・最終チェック | 難易度：標準

最終チェックで、1階 60.0m^2 、2階 55.0m^2 、3階 45.0m^2 と面積表に記入されているが、3階を再計算すると 48.0m^2 であった。このときの適切な対応はどれか。

ア．面積表の 45.0m^2 を残し、図面実測値は無視する。

イ．3階だけ 48.0m^2 へ直し、延べ面積の合計値は変更しない。

ウ．面積条件を超える場合でも、数値だけ元の 45.0m^2 へ戻せばよい。

エ．3階の実際の図面面積を再確認し、正しければ面積表と延べ面積を 48.0m^2 基準へ修正し、面積条件・容積率も再判定する。

答え・解説

正答：エ

ア：図面と面積表の不整合が残る。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

イ：合計面積も再計算する必要がある。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

ウ：実際の図面を条件内へ修正する必要がある。

エ：一階の面積修正は延べ面積と法規計算へ波及するため、関連項目をまとめて直す必要がある。

総合解説：面積修正は「各階→延べ面積→課題面積条件→容積率」の順に連鎖チェックする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0135

5-5 総合整合・時間管理 > 図面相互の整合・最終チェック | 難易度：標準

吹抜けの最終チェックとして、最も適切なものはどれか。

ア．上階平面図の吹抜け範囲、床伏図の床開口、面積算定上の扱い、手すり位置を同じ寸法で照合する。

イ．平面図に「吹抜」と書いてあれば、床伏図で床が存在してもよい。

ウ．吹抜けの大きさは面積表と無関係なので確認しない。

エ．手すりは家具で代用できるので図面上不要である。

答え・解説

正答：ア

ア：吹抜けは平面・構造・面積・安全にまたがるため、複数図面を同時に確認する必要がある。

イ：物理的に矛盾するため床開口を一致させる必要がある。

ウ：床の有無は各階床面積へ影響する。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

エ：転落防止と計画成立性を確認する必要がある。

総合解説：令和7年では吹抜けの大きさに関する条件違反が多かったと公表されており、寸法まで確認することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0136

5-5 総合整合・時間管理 > 図面相互の整合・最終チェック | 難易度：標準

屋根に関する最終チェックとして、最も適切なものはどれか。

ア．立面図の屋根だけ整っていれば、小屋伏図は別形状でもよい。

イ．立面図の棟・軒、小屋伏図の架構、平面図の外壁・下屋位置を照合し、屋根形状と雨水排水が一致するか確認する。

ウ．小屋伏図の棟方向が立面図と90度異なっても、屋根面積が同じならよい。

エ．雨樋・排水方向は建物計画と無関係なので確認しない。

答え・解説

正答：イ

ア：図面相互の不整合となる。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

イ：屋根は複数図面にまたがるため、棟方向・軒先・下屋を同じ位置関係で表す必要がある。

ウ：屋根の外観・架構が一致しない。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

エ：外構・開口・立面との干渉も確認する必要がある。

総合解説：最終チェックでは屋根を一つの要素として全図面で追跡すると、棟方向の描き違いを発見しやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0137

5-5 総合整合・時間管理 > 図面相互の整合・最終チェック | 難易度：標準

配置図の最終確認として、最も適切なものはどれか。

- ア．建物が敷地内に見えれば、道路種別・後退・離隔の確認は不要である。
- イ．法規計算は問題用紙の敷地寸法だけを使い、配置図で後退した有効敷地は無視する。
- ウ．道路境界・隣地境界・建物位置・主要離隔を確認し、その敷地条件を使った建蔽率・容積率・高さ等の計算と一致するか照合する。
- エ．配置図の建物位置を修正しても、高さ制限や採光条件は再確認しない。

答え・解説

正答：ウ

- ア：接道・道路後退・高さ等に影響するため確認が必要である。
 - イ：実際の法的な敷地条件を用いて計算する必要がある。
 - ウ：配置図の寸法が変わると法規計算の前提も変わるため、図と計算を一体で確認する。
 - エ：建物位置の変更は複数の法規条件へ影響し得る。
- 総合解説：配置修正後は「道路・面積・高さ・採光」の関連チェックを忘れない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0138

5-5 総合整合・時間管理 > 図面相互の整合・最終チェック | 難易度：標準

主要要求室の最終チェックとして、最も適切な方法はどれか。

- ア．平面図を眺めて部屋数が多ければ十分と判断する。
- イ．面積表に室名がなくても、主要室は全て存在するとみなす。
- ウ．設置階の指定は最終チェック対象から外す。
- エ．問題文から作った要求室一覧と各階平面図を照合し、室の有無・設置階・面積・特記事項を一室ずつ確認する。

答え・解説

正答：エ

- ア：指定された特定の室が全てあるか個別に確認する必要がある。
 - イ：平面図で実際の室として計画されている必要がある。
 - ウ：設置階違いも過去の重大な不適合に含まれる。
 - エ：主要室の欠落・設置階違いは重大な不適合となり得るため、記憶だけでなく一覧で確認する。
- 総合解説：要求室一覧は試験開始直後に作り、エスキス確定時・清書後・最終確認の複数回使うと効果的である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0139

5-5 総合整合・時間管理 > 図面相互の整合・最終チェック | 難易度：応用

終了直前に2階の窓位置を変更する必要が生じた。最も適切な対応はどれか。

ア．平面図を修正すると同時に対応する立面図、必要な採光・換気チェック等へ影響がないか確認し、関連箇所をまとめて修正する。

イ．2階平面図だけ窓を移し、立面図は時間がないのでそのままにする。

ウ．立面図だけ窓を移し、平面図には旧位置を残す。

エ．窓位置変更による採光・家具・構造壁への影響は確認しない。

答え・解説

正答：ア

ア：終盤の局所修正は図面不整合を生みやすいため、関連図面をセットで直す。

イ：図面相互の不整合が残る。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

ウ：同じ開口部を一致させる必要がある。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

エ：計画・法規・構造へ波及する可能性を確認する必要がある。

総合解説：最終修正は「一か所直したら終わり」ではなく、その要素が現れる全図面を追う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0140

5-5 総合整合・時間管理 > 図面相互の整合・最終チェック | 難易度：応用

要求図書を全て描き終えた後、最終チェックを完結させる方法として最も適切なものはどれか。

ア．答案がきれいに見えれば、問題文は再確認しない。

イ．答案だけを見るのではなく、問題文の設計条件・要求図書一覧へ戻り、各条件を答案上で満たしたか照合する。

ウ．最終確認ではエスキスだけを見て、清書答案は確認しない。

エ．過去問題の条件と照合し、当日問題の条件は見ない。

答え・解説

正答：イ

ア：条件の読み落としを発見するため問題文との照合が必要である。

イ：自分の案の中だけでチェックすると、最初から読み落としていた条件には気付きにくい。

ウ：採点される清書答案に条件が正しく反映されているか確認する。

エ：当日与えられた設計条件が最優先である。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

総合解説：JAEICも令和8年課題公表で「試験問題を十分に読んだうえで」臨むよう注意している。最終確認も当日問題が基準である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0141

5-5 総合整合・時間管理 > 計画の要点・時間配分 | 難易度：基礎

「計画の要点等」を記述する際の基本として、最も適切なものはどれか。

ア．図面に採用していない一般論を多く書くほど高評価になる。

イ．問題文の文言をそのまま写し、具体的な計画方法は書かない。

ウ．実際に答案図面で採用した計画について、設計条件に対して何を意図し、どのように実現したかを具体的に記述する。

エ．図面と反対の内容を書いても、文章が長ければ問題ない。

答え・解説

正答：ウ

ア：記述は自分の答案計画と対応させる必要がある。

イ：設計条件へどう対応したかを説明することが重要である。

ウ：記述内容と図面が一致して初めて、計画意図を説明する回答として成立する。

エ：図面との矛盾は設計意図の信頼性を損なう。

総合解説：令和8年は「計画の要点等」が公表要求図書に含まれる。詳細な設問内容は当日問題で確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0142

5-5 総合整合・時間管理 > 計画の要点・時間配分 | 難易度：基礎

計画の要点を短い文章でまとめる方法として、最も適切なものはどれか。

ア．「使いやすくした」「安全にした」だけで、具体的な方法は一切書かない。

イ．図面上の室名を順番に列挙するだけにする。

ウ．一つの設問に無関係な知識をできるだけ多く書き込む。

エ．設計上の目的・配慮事項を示し、そのために採用した具体的な配置・構造・設備上の方法を記述する。

答え・解説

正答：エ

ア：抽象的な評価語だけでは計画内容を説明できない。

イ：計画意図や理由を示す必要がある。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

ウ：問われた内容へ直接答える方が明確である。

エ：「何に配慮したか」と「図面上どうしたか」を対応させると、簡潔でも具体的な説明になる。

総合解説：記述では「目的→具体策→得られる効果」の流れを意識すると、短時間で図面と対応した回答を作りやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0143

5-5 総合整合・時間管理 > 計画の要点・時間配分 | 難易度：基礎

木造架構に関する「計画の要点等」を問われた場合の回答として、最も適切な考え方はどれか。

ア．耐力壁のバランス、上下階の柱・壁の連続、梁スパン等、実際の床伏・平面に反映した構造上の工夫を説明する。

イ．木材は軽いという一般論だけを書き、答案の架構には触れない。

ウ．図面では耐力壁が偏っていても、文章だけ「バランスよく配置した」と書く。

エ．構造の設問でも家具配置だけを説明する。

答え・解説

正答：ア

ア：構造の一般知識ではなく、自分の答案で採用した架構計画と結び付けて記述する。

イ：設計した建物における具体的な構造配慮を示す必要がある。

ウ：記述と図面が矛盾しており不適切である。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

エ：問われた構造計画に直接対応する内容を記述する。

総合解説：採点ポイントには「構造に対する理解」「架構計画」が含まれる。記述と床伏図・平面図を一致させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0144

5-5 総合整合・時間管理 > 計画の要点・時間配分 | 難易度：標準

設備計画に関する「計画の要点等」を問われた場合の回答として、最も適切なものはどれか。

ア．設備は採点されないとして無回答にする。

イ．水回りの上下近接、換気・空調機器位置、維持管理等、答案に反映した設備上の工夫とその理由を具体的に述べる。

ウ．図面では水回りが分散しているのに「上下でまとめた」と記述する。

エ．設備のカタログスペックを大量に書き、配置計画には触れない。

答え・解説

正答：イ

ア：過去の採点ポイントには設備計画が計画一般の一項目として含まれる。

イ：設備計画は機器名称の暗記ではなく、平面計画の中で合理的に成立させた内容を説明する。

ウ：図面と記述を一致させる必要がある。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

エ：問われた設計上の工夫を簡潔に説明する方が適切である。

総合解説：計画の要点は図面を文章で補足するものとして扱う。自分の案にない対策を書かないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0145

5-5 総合整合・時間管理 > 計画の要点・時間配分 | 難易度：標準

5時間の設計製図試験に向けた時間配分の練習として、最も適切な考え方はどれか。

- ア．一枚目の平面図に納得するまで時間制限なく描き込み、他の要求図書は残り時間で考える。
- イ．試験時間は5時間あるので、練習では時間を測らなくてよい。
- ウ．読取り・エスキス・作図・記述・最終確認の各工程に上限時間を設け、要求図書を完成させたうえで最終確認時間を残す訓練をする。
- エ．公式が工程別の固定分数を指定しているので、その分数から1分も変更してはいけない。

答え・解説

正答：ウ

ア：一面以上の未完成は重大な不適合となり得るため危険である。

イ：本番で全要求図書を完成させるには時間内作業の訓練が必要である。

ウ：公式に固定された工程別分数は公表されていないが、未完成が重大な不適合となるため、時間管理の仕組みを持つことが重要である。

エ：JAEICは試験時間5時間を示しているが、工程ごとの固定時間配分は公表していない。

総合解説：時間配分の具体的な分数は受験者の作図速度によって異なる。重要なのは工程ごとの締切を持ち、未完成と最終チェック不足を防ぐことである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0146

5-5 総合整合・時間管理 > 計画の要点・時間配分 | 難易度：標準

試験後半で予定より作図が遅れていることに気付いた場合の対応として、最も適切なものはどれか。

- ア．完成済みの一枚へさらに細かな植栽・ハッチングを追加し続ける。
- イ．遅れを取り戻すため、面積表と計画の要点等を無条件に省略する。
- ウ．残り図面を白紙のままにし、最初の平面図だけを完璧に仕上げる。
- エ．残りの要求図書と必須記入事項を確認し、装飾的な描き込みより全図面の完成と重大条件の記入を優先する。

答え・解説

正答：エ

ア：未完成図面が残る方が重大なリスクとなる。

イ：令和8年ではいずれも公表要求図書に含まれる。

ウ：要求図書未完成となり重大な不適合に該当し得る。

エ：公式判定基準では要求図書の一面以上の未完成が重大な不適合となるため、完成度の配分を調整する必要がある。

総合解説：時間不足時には「要求図書を全部成立させる→致命条件を確認する→余裕があれば表現を整える」の優先順位が合理的である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0147

5-5 総合整合・時間管理 > 計画の要点・時間配分 | 難易度：標準

試験開始直後の問題読取りについて、最も適切な考え方はどれか。

- ア．課題・敷地・要求室・面積・法規・要求図書・特記事項を整理してからエスキスへ進み、読み落としを防ぐ。
- イ．作図時間を増やすため、問題文は課題名だけ見てすぐ清書を始める。
- ウ．過去問と同じ条件だと仮定し、当日条件を読まない。
- エ．要求図書は課題公表時の記憶だけで判断し、答案用紙・問題文の指定を確認しない。

答え・解説

正答：ア

ア：課題文の読み落としは主要室欠落や設計条件違反を引き起こし、後からの修正が難しい。

イ：JAEICも試験問題を十分に読むよう注意しており、条件漏れの危険が高い。

ウ：年度ごとに設計条件は異なるため当日問題が基準である。

エ：具体的指定は当日問題中に示される事項もある。

総合解説：最初の読取りは時間消費ではなく、後半の手戻りを防ぐ投資である。条件をチェックリスト化してからエスキスする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0148

5-5 総合整合・時間管理 > 計画の要点・時間配分 | 難易度：標準

エスキス段階で複数案の比較が続き、予定時間を超えそうな場合の判断として、最も適切なものはどれか。

- ア．完璧な案が見つかるまで清書を開始しない。
- イ．設計条件・法規・構造が成立する案の中から合理的な案を確定し、細部の最適化は作図と並行して必要最小限に行う。
- ウ．条件に違反していても最初に思いついた案を無検討で採用する。
- エ．エスキスの変更履歴を全て清書答案へ描き残す。

答え・解説

正答：イ

ア：後半の要求図書が未完成になるリスクが高い。

イ：試験は最良案の無限探索ではなく、時間内に合格水準の設計図書を完成させることが必要である。

ウ：最低限の条件・法規・構造成立チェックは必要である。

エ：答案には確定した設計を明確に表現する。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

総合解説：練習ではエスキスに締切を設定し、『成立している案を確定する判断力』を養うことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0149

5-5 総合整合・時間管理 > 計画の要点・時間配分 | 難易度：応用

5時間の試験練習で中間チェックを設ける方法として、最も適切なものはどれか。

- ア．チェックは最後の1分だけ行い、それまでは問題文を見返さない。
- イ．中間チェックでは線の濃さだけ確認し、設計条件は見ない。
- ウ．エスキス確定時、主要平面完了時、要求図書完成時などに短いチェックを入れ、重大条件の漏れを早期に発見する。
- エ．チェック回数を増やすため、数分ごとに作図を止めて全図面を最初から確認する。

答え・解説

正答：ウ

ア：重大な読み落としが終盤まで残る危険がある。

イ：要求室・面積・法規・構造等の成立性を確認することが重要である。

ウ：最後の一回だけで全てを確認するより、修正しやすい段階で条件を確認の方が手戻りを小さくできる。

エ：過度な中断では作業効率が落ちるため、工程の区切りで行うのが合理的である。

総合解説：時間管理は単なる時計管理ではなく、ミスを早期発見する工程管理でもある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01

0150

5-5 総合整合・時間管理 > 計画の要点・時間配分 | 難易度：応用

2026年9月3日時点の令和8年二級建築士「設計製図の試験」について、最も適切な記述はどれか。

- ア．試験時間は3時間で、計画の要点等は要求されない。
- イ．計画の要点等の全設問と模範文が既に公式公表されている。
- ウ．JAEICが読取り30分・エスキス60分など工程別の固定時間を公式指定している。
- エ．試験時間は5時間で、「計画の要点等」が要求図書として公表されているが、その具体的な設問内容や受験者の工程別時間配分は公表されていない。

答え・解説

正答：エ

ア：令和8年二級建築士の設計製図試験は5時間で、計画の要点等が要求図書に含まれる。

イ：具体的な当日設問は未公表である。このため、要求図書の整合性や設計条件の確認方法として適切とはいえない。

ウ：試験全体5時間は公表されているが、工程別の固定配分は公式指定されていない。

エ：JAEICは試験時間と要求図書を公表している一方、当日問題の具体的記述設問や個人の作業配分までは事前公表していない。

総合解説：教材では公式情報と学習上の推奨戦略を区別する。時間配分は個々の作図速度に合わせて練習で最適化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-01-01